

莓ましまろまとめ本

ましまろワークス



For Adult

莓ましまろまとめ本

ましまろワークス



もくじ

- 05 ————— Episode.A お姉ちゃんといっしょ
- 23 ————— 作品解説①
- 24 ————— Episode.B 百合？！
- 36 ————— Episode.C 仲良しさん
- 58 ————— 作品解説②
- 59 ————— Episode.D 伸×アナ！
- 71 ————— Episode.E 美羽式マッサージ術（描き下ろし）
- 81 ————— 短編SS『律動混濁のストロベリー』
- 85 ————— 表紙ギャラリー

ましまろワークス

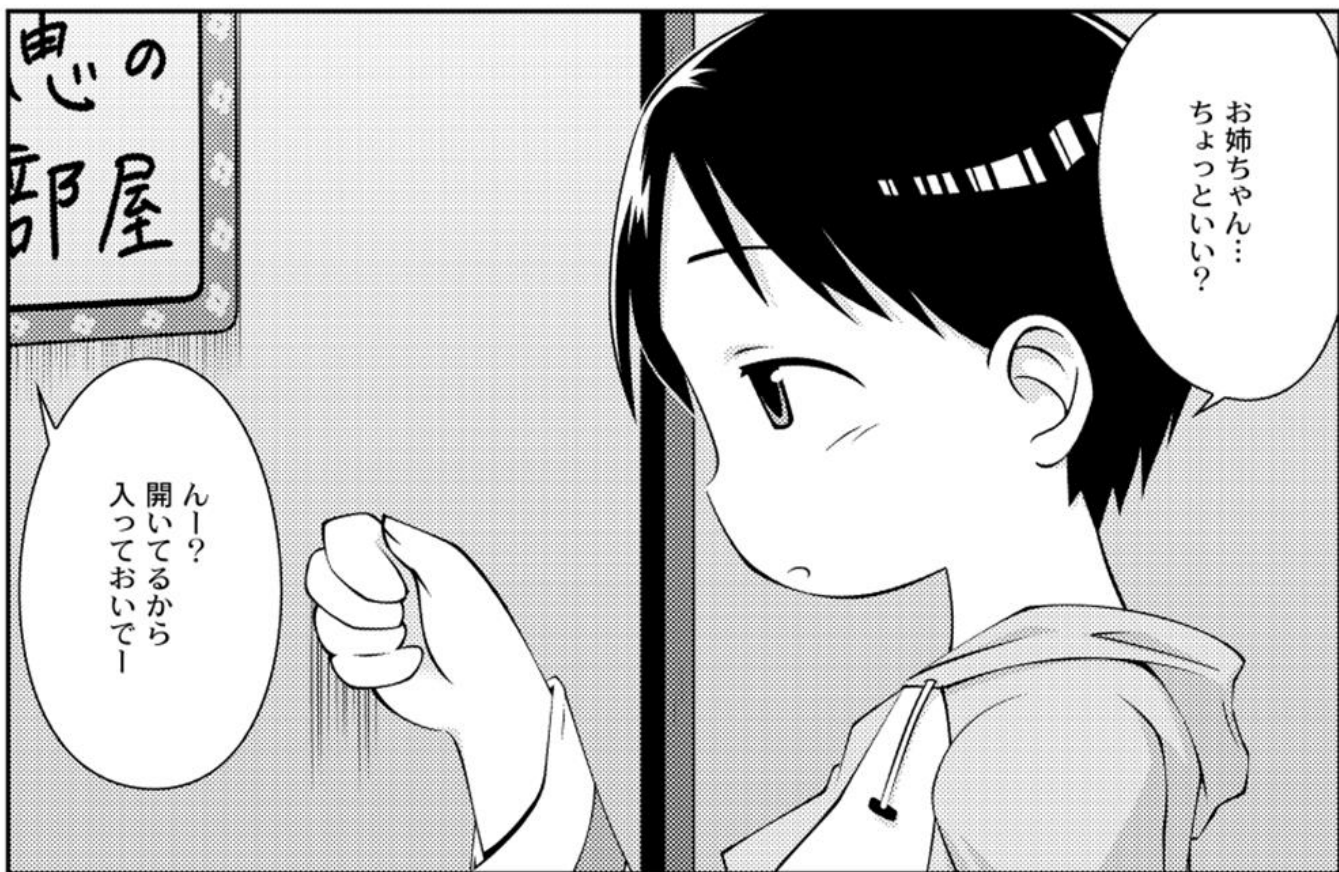
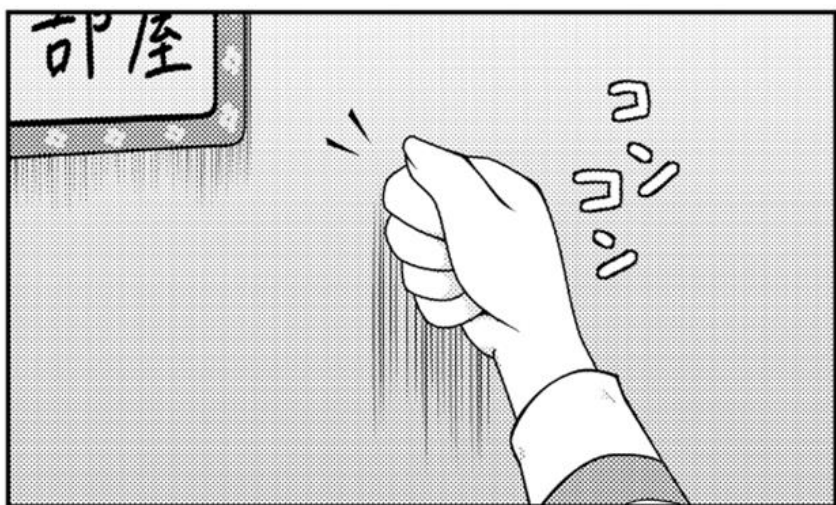
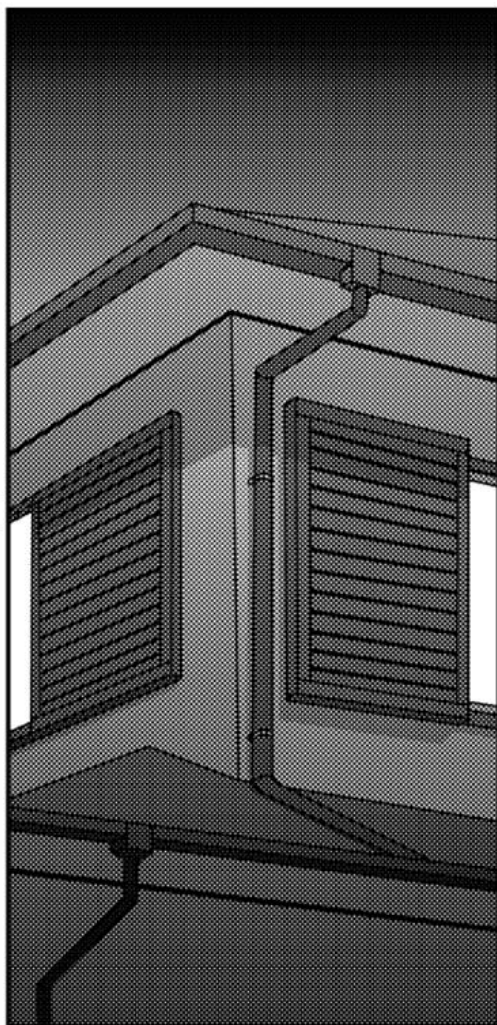
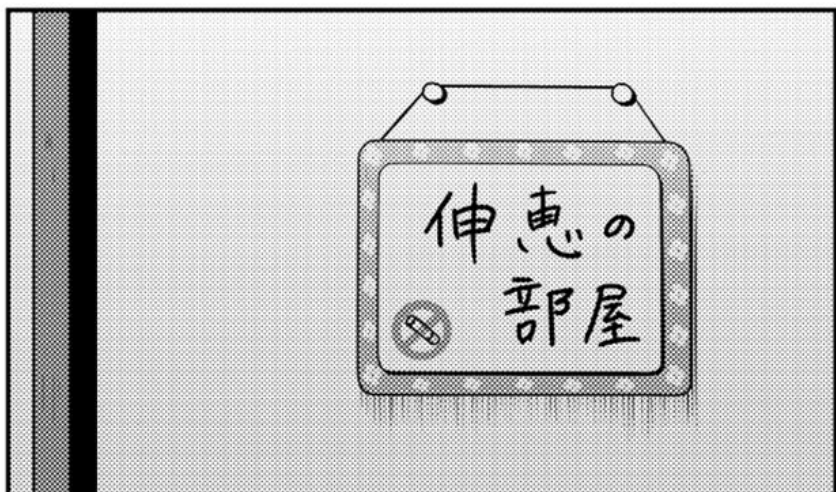
※18歳未満の購入・閲覧を禁じます

発行 : なつこん 夏実/紺野

発行日 : 2011/12/31

印刷所 : BRO'S

連絡先 : <http://natukon.mints.ne.jp/>



episode.A

お姉ちゃんといっしょ



原作 夏実
作画 紺野





え？
ちい 何のこと？



みっちゃん
ベッドの中
で
なにしてたの？



え…
な なんだよ？
あたし美羽に
何かしたのか？

大声
出すような…



えっと…
うん…

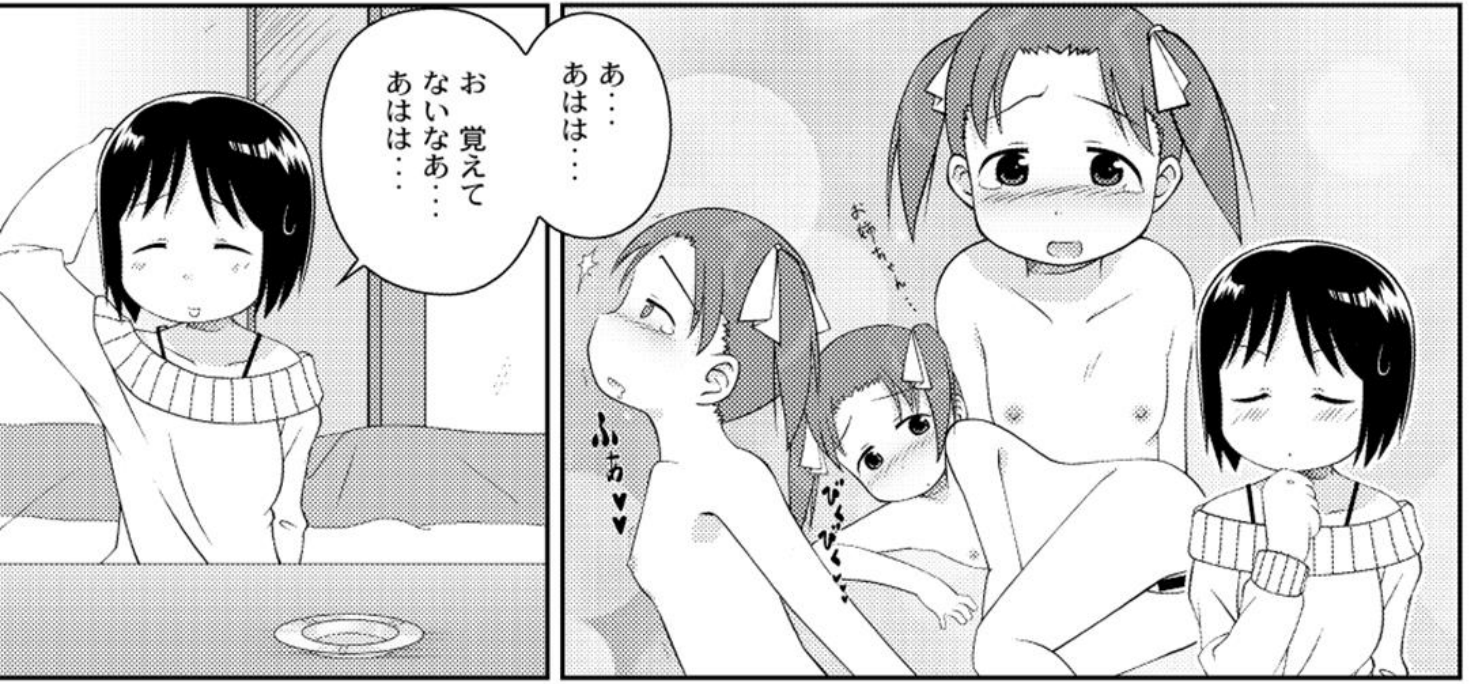


もー
とほけないでよ…
みっちゃん
とほっかり…

お父さんとお母さんが
いなかったからいいけどさ
あんな大きな声出して…



うーん…





あー
いじりやすいから
ほら 美羽は

別に美羽が
特別とかないぞ？

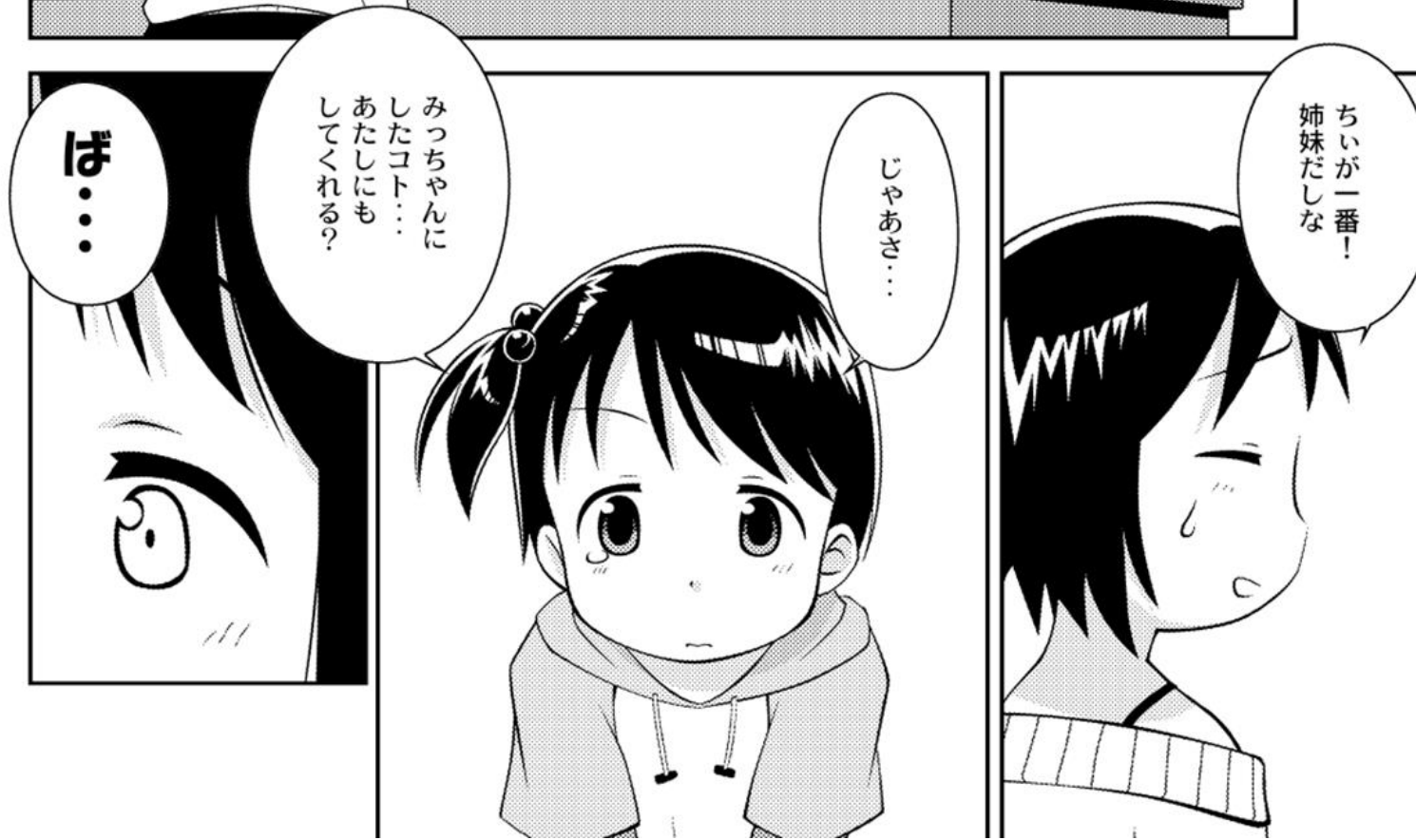
うん そうそう
みんな大好き



あたし みっちゃんも
好きだけど

お姉ちゃんが
一番好きだよ？

そ それは
あたしもだよ

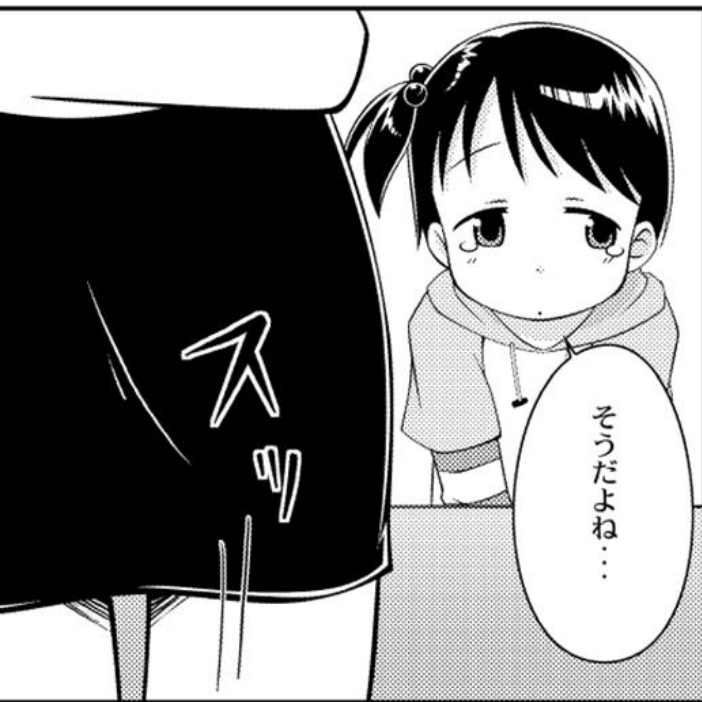


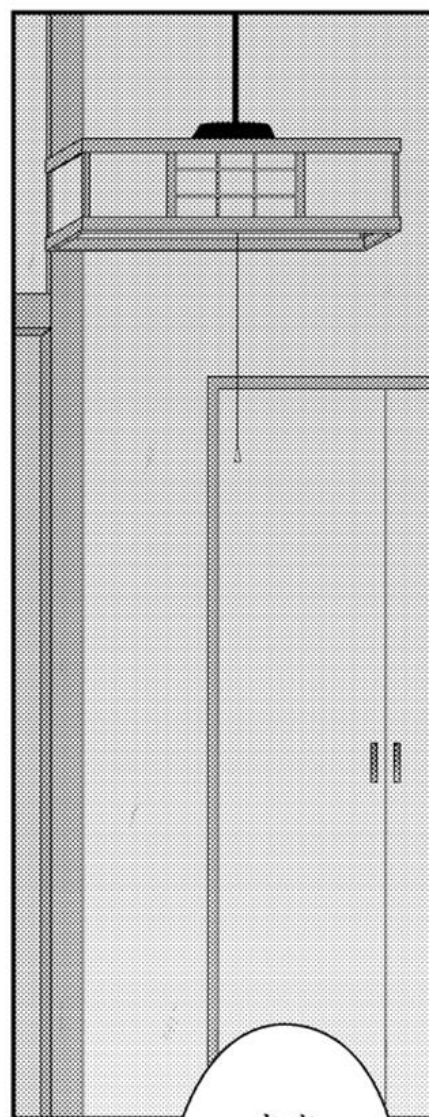
ちが一番！
姉妹だしな

じゃあさ…

みっちゃんに
したコト…
あたしにも
してくれる？

ぼ…





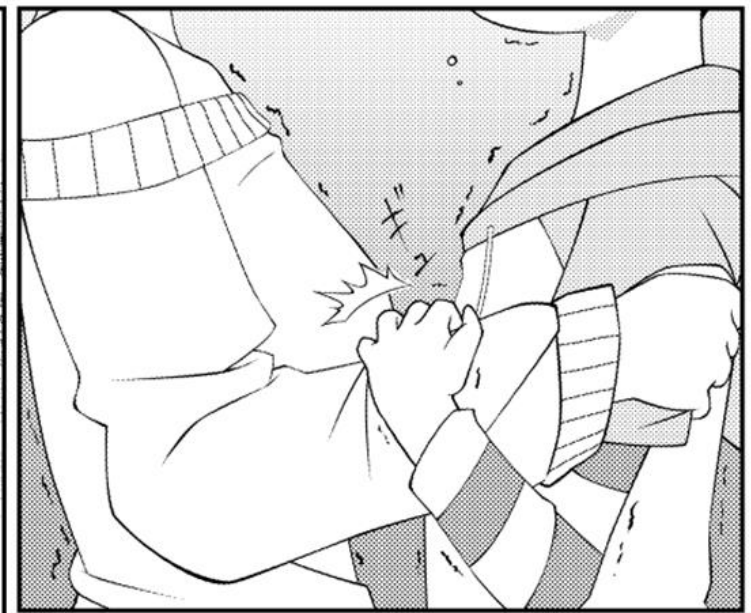
じゃあ次は
大人のキスしてみよっか

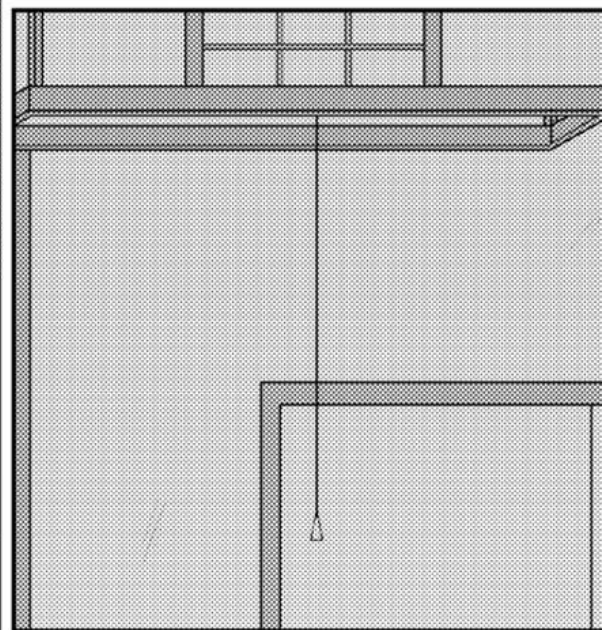


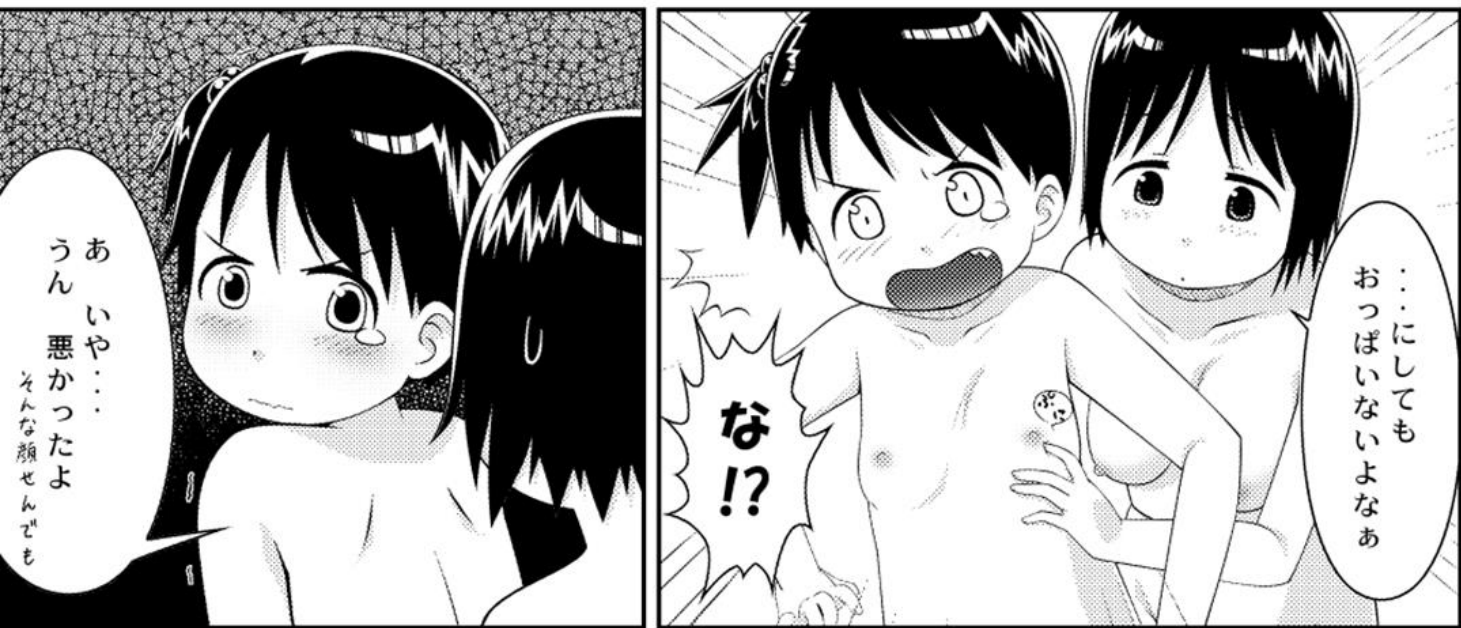
ちいは
キスは初めてか？

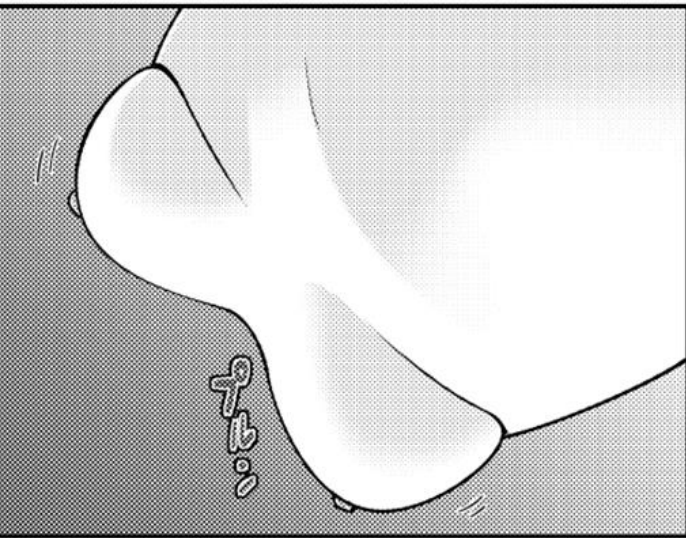
うん…

ふっ









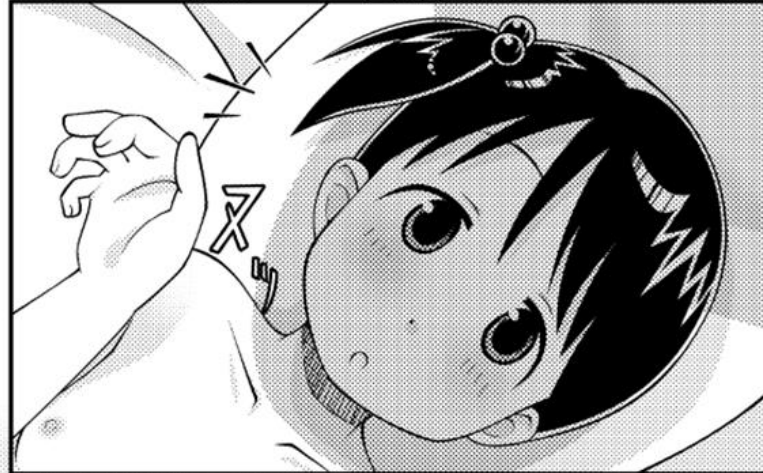


ちよちよっと
タンマ
あたし胸は…

やっ♡
ちよっ…
やっ♡

あたしも
これくらい
胸大きく
なるかなあ

たっ♡



くそ
こうなったら…



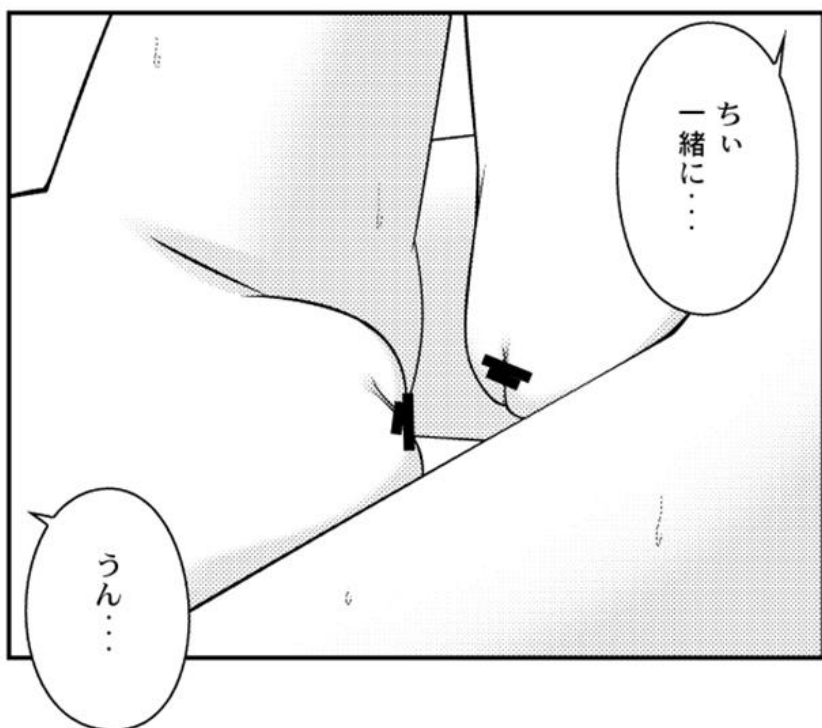
反撃開始!
いっせーきんぱーす♡

なんだ
もうココ
トロトロじゃん
解説せんでいい!!

わあっ

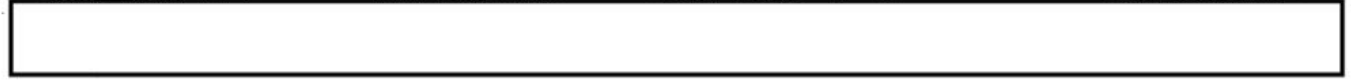
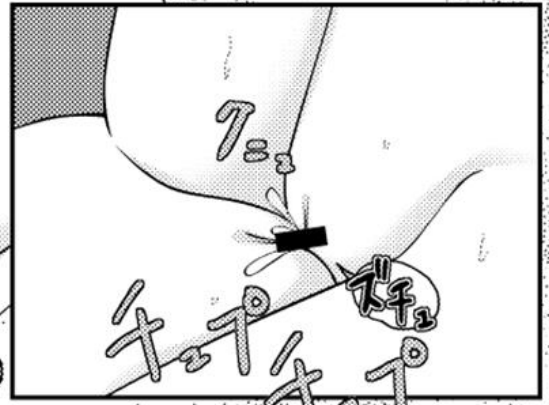
くはあ♡

かっバ





にゅにゅ♡
にゅにゅ♡



お姉ちゃん！
次はあたしと
プロレスごっこ
しようぜ！

うわわーっ！！

Episode.A お姉ちゃんといっしょ

記念すべきなつこんファーストインパクト、
なぜましまろになったのかは覚えていたりいなかったり。
千佳×美羽あたりが妥当なところかなーとか、
今になると思ったりもしますが、こまけえことあ(r y。
伸姉はアナや茉莉ばかりかわいがってますけれど、
姉妹愛だって負けていないはず!!! というのが見所です。
展開もわりとすんなりいけた気がしますし、
これぐらいの絡みなら本編であってもおかしくないはず!!!
というわけで、たまには勇気を振り絞ってみたちいちゃんと
たまにはそれに応える伸姉のお話でした。

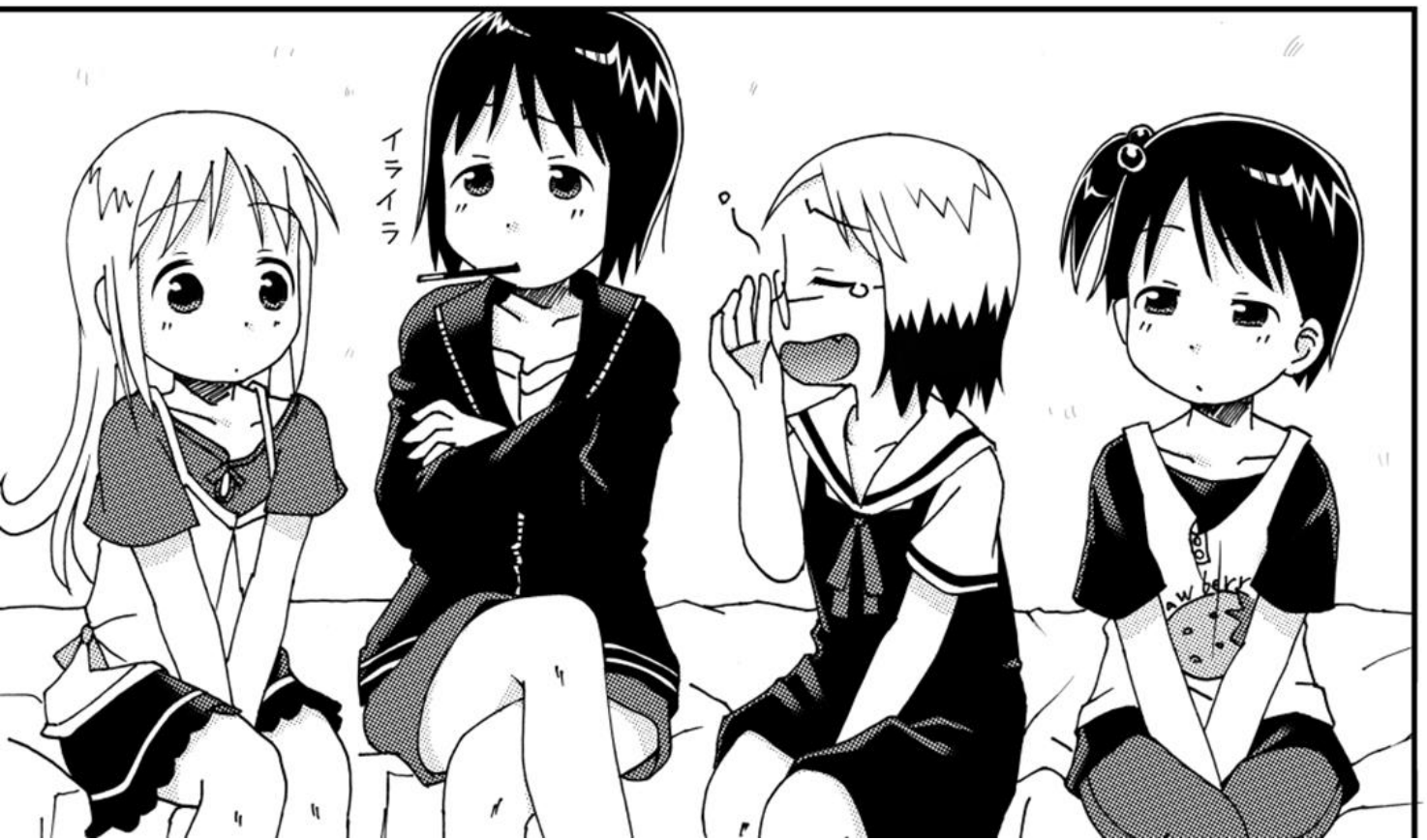
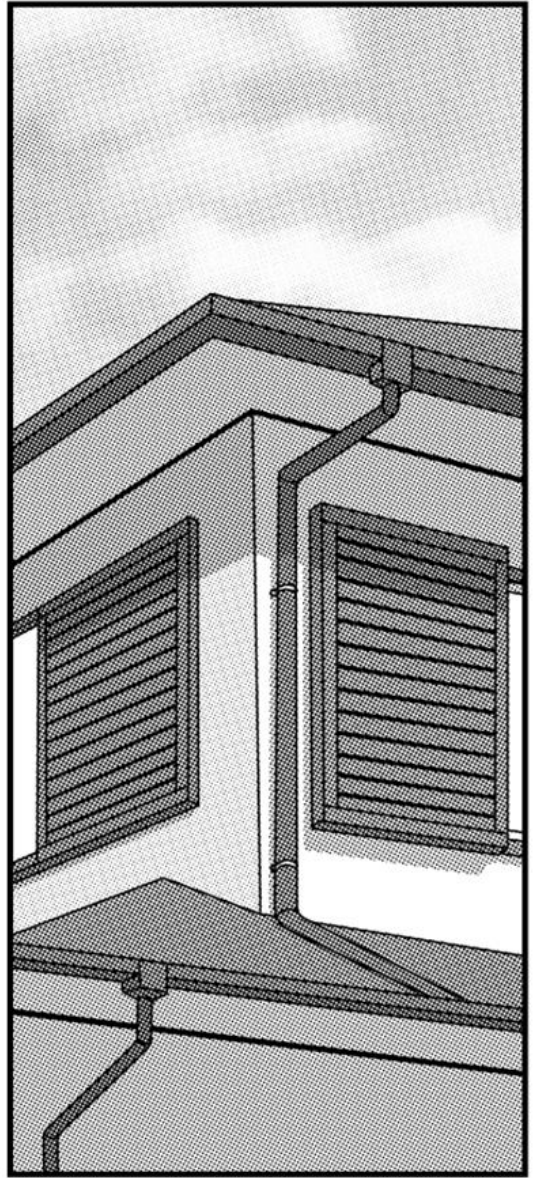
Episode.B 百合?!

なんてこと…………… 2作目が一般向けだなんて……………
そんなわけでギャグといふかなんといふかなお話です。
当時は「ちょっとどうかなー……………」と覚えていたりですが、
改めてみると結構ましまろなノリを醸し出しているような
そんな気がします。全キャラ出てますし。
百合の解説とかしたかったはずが、ノリ突っ込みのギャグに。
でもそれはそれでらしいかもしれないと思ったり。
本編のほかに、中表紙と扉絵も何だかノリノリです。

出番、増えようとも—

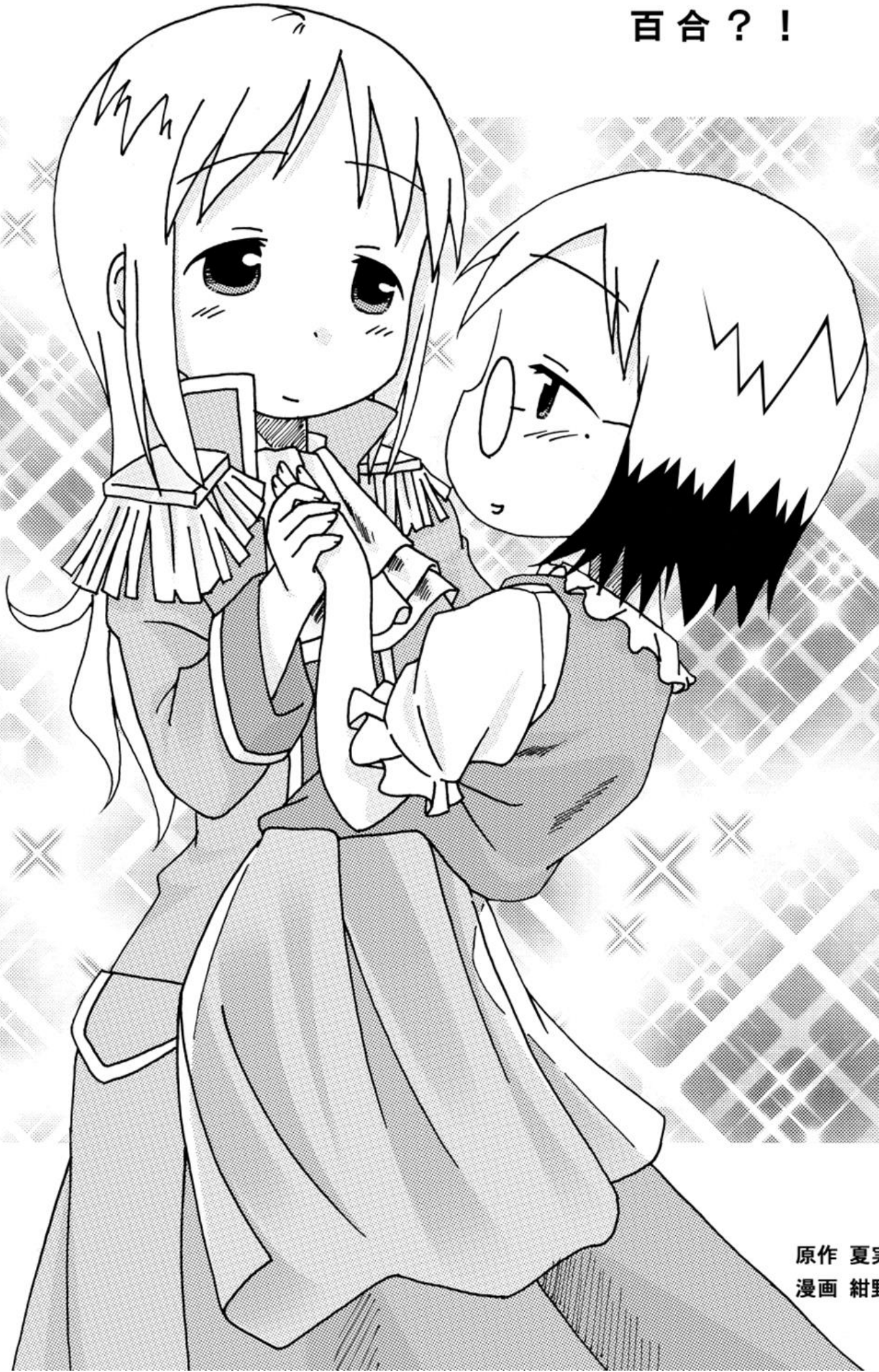
人気、揺るがず!



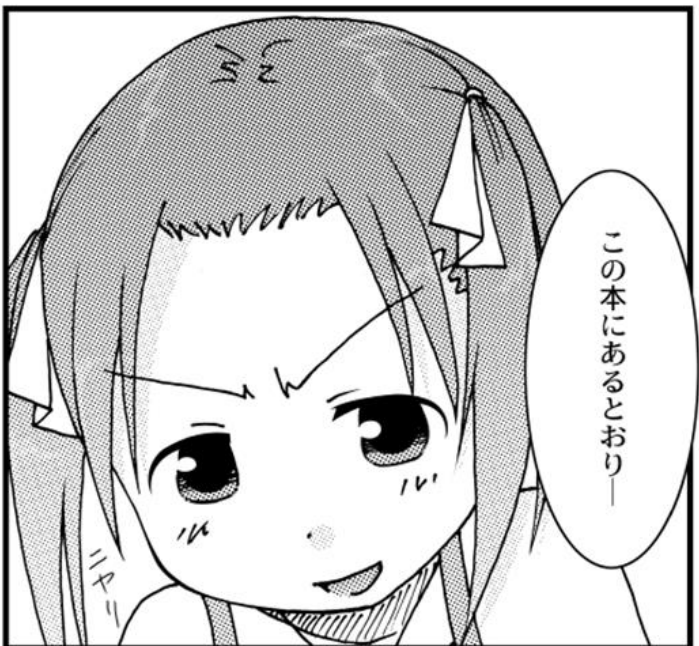
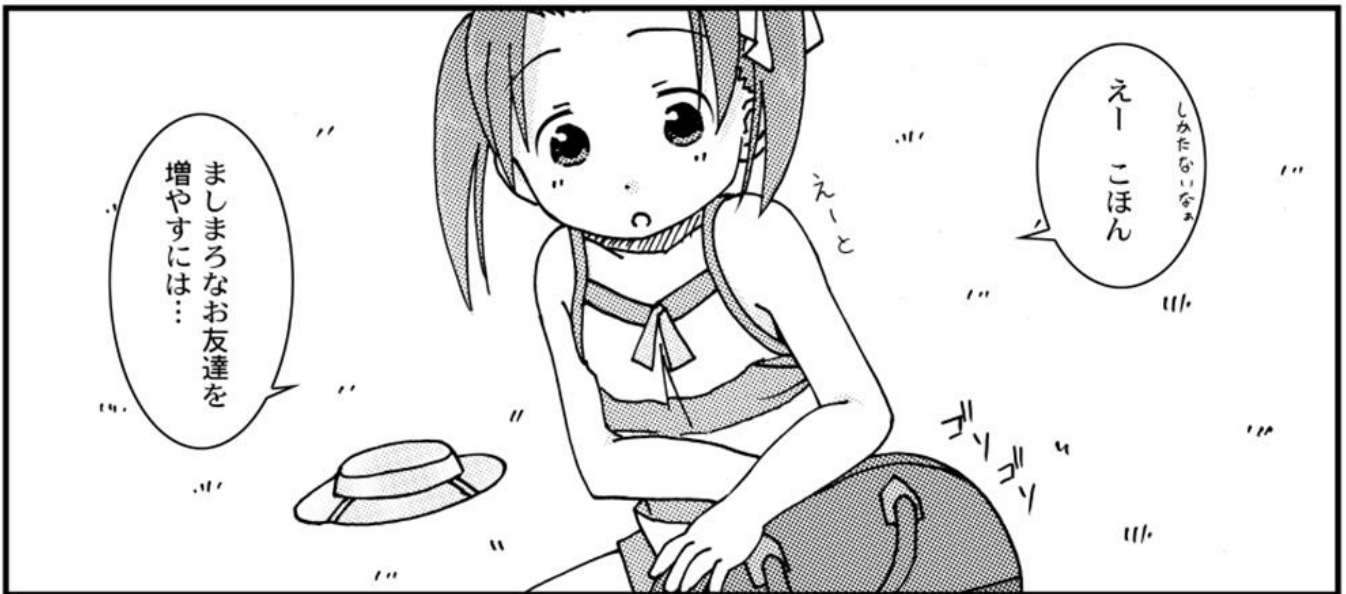


episode.**B**

百合？！



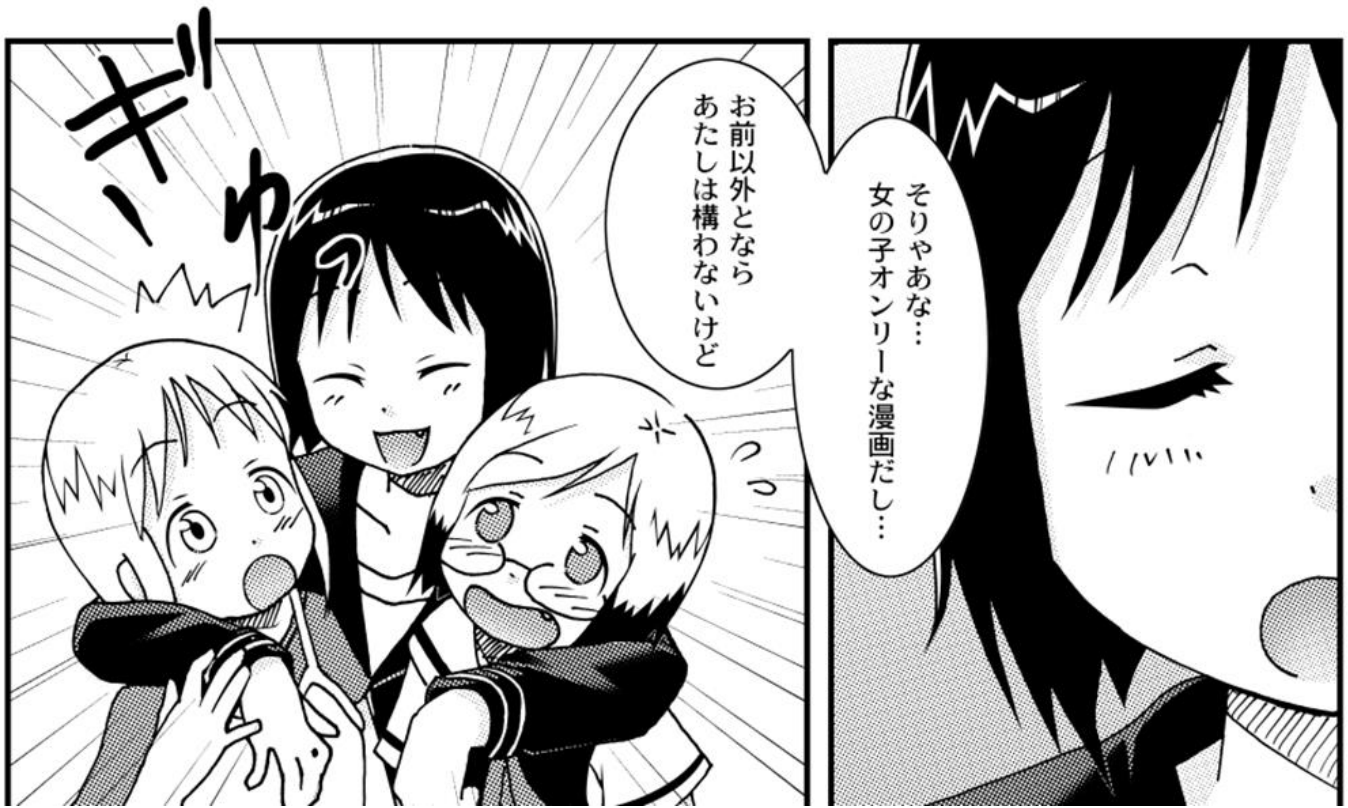
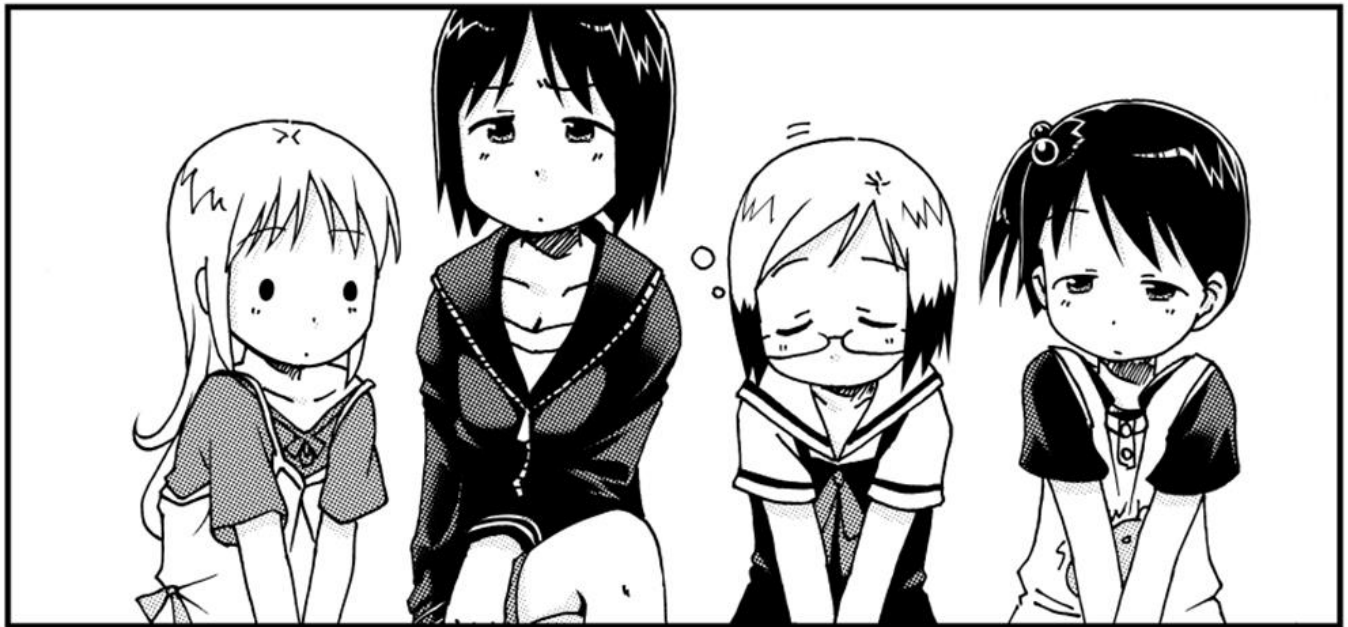
原作 夏実
漫画 紺野





百合!!!

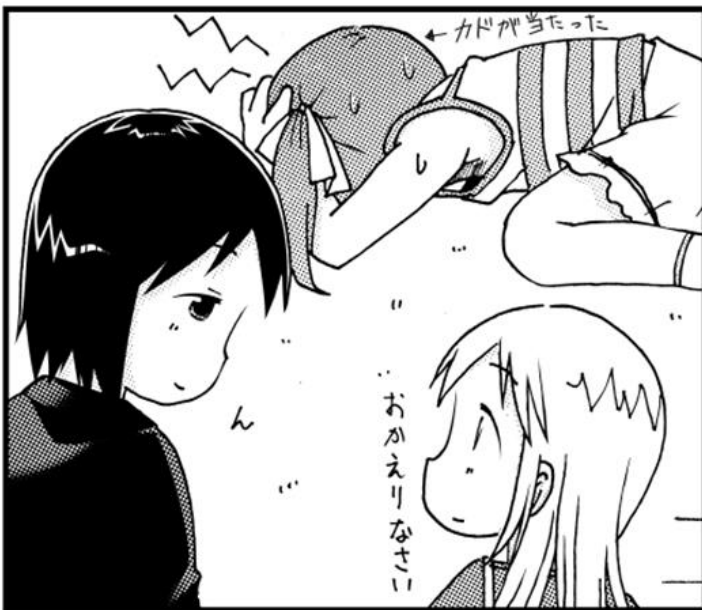
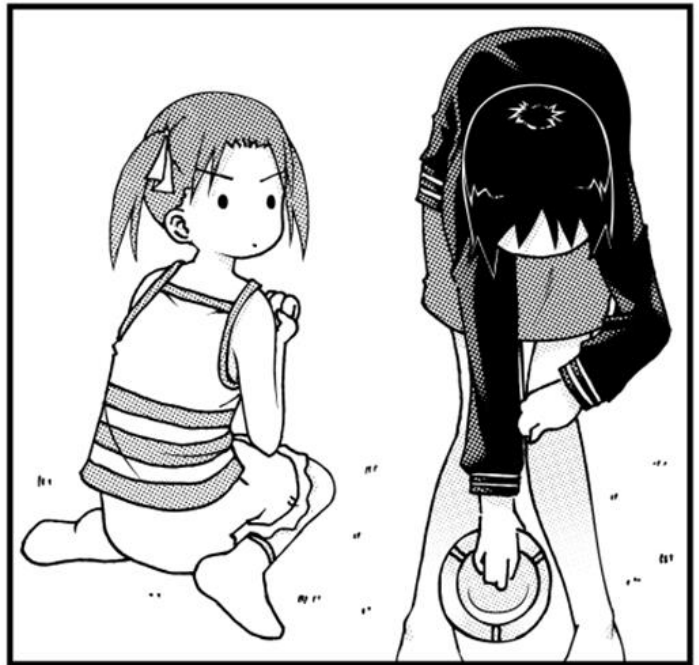
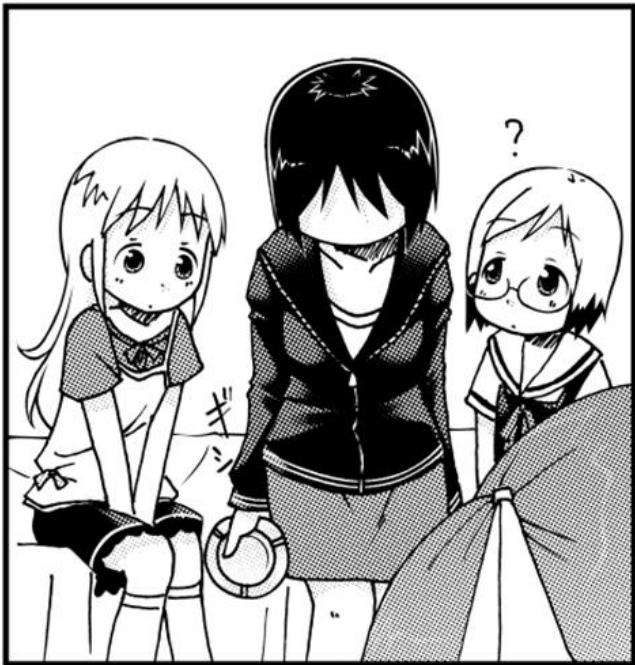
百合だよ!



お前以外となら
あたしは構わないけど

そりやあな...
女の子オンリーな漫画だし...

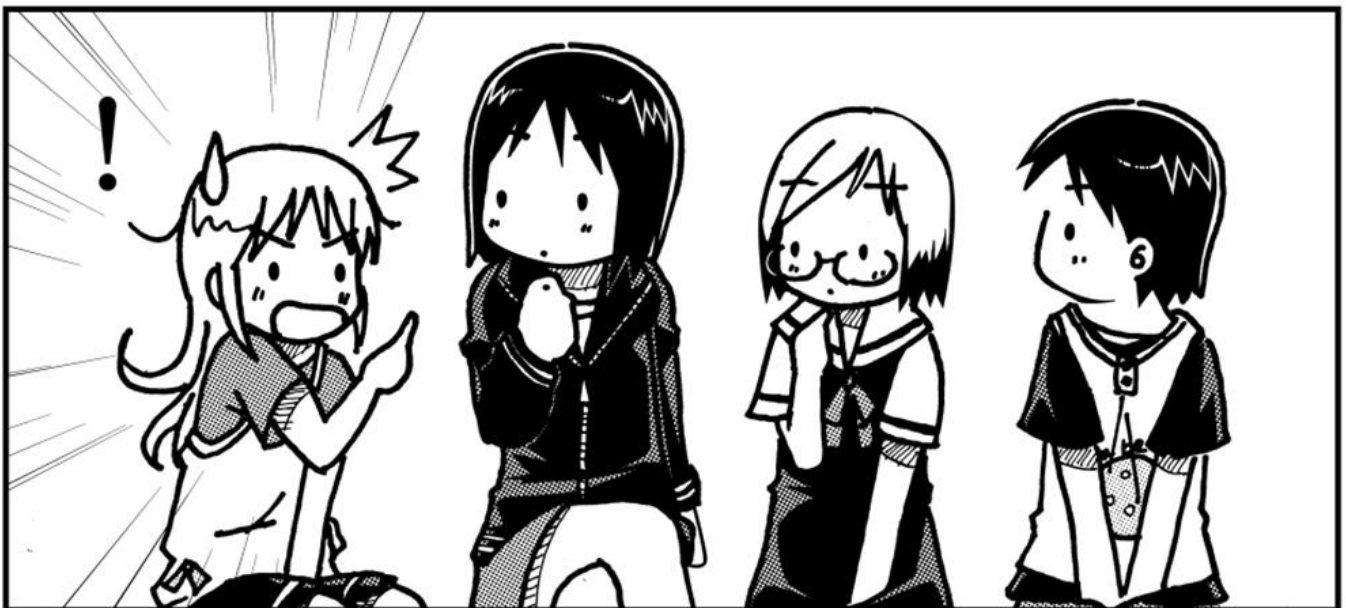
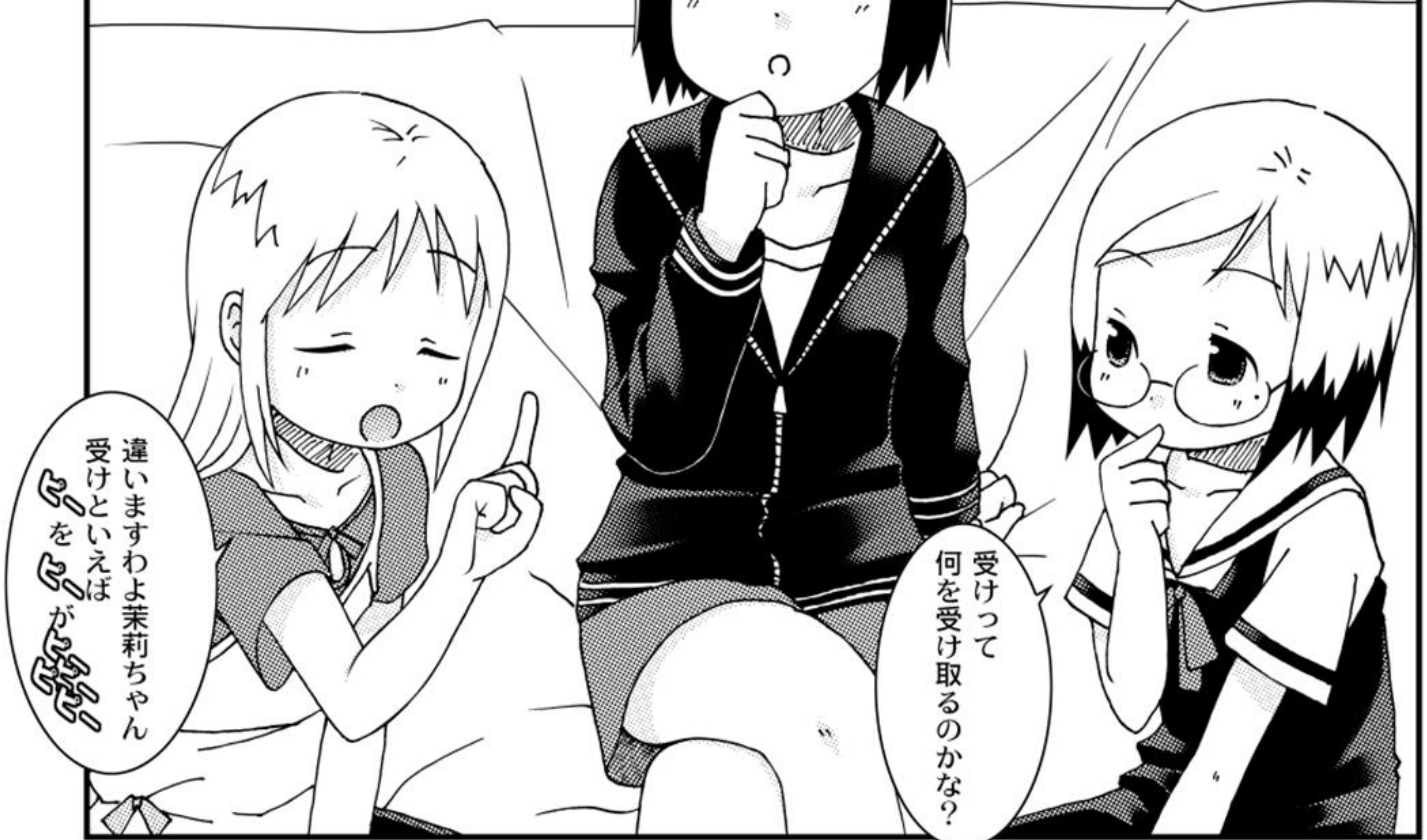


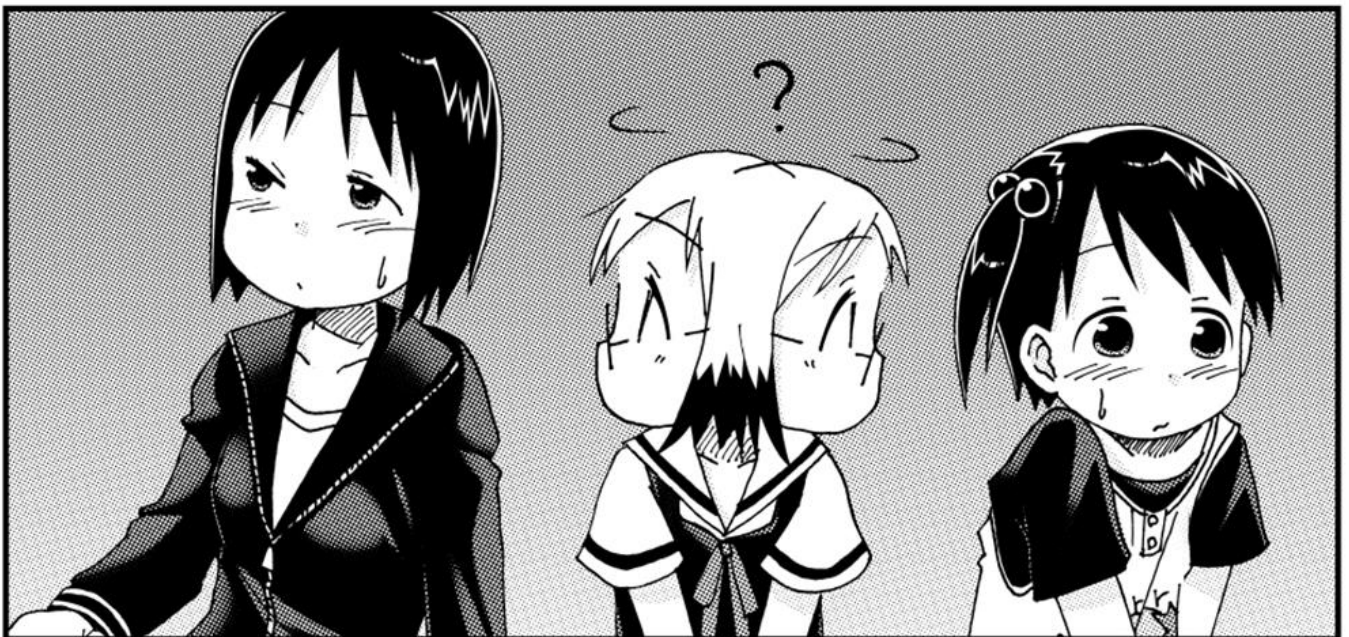


で攻めだと
あたしと美羽か

受けは
茉莉ちゃん

ちいとアナちゃんは
難しいところだなあ







さすがニセ外人コッポラ！
わかってるね！

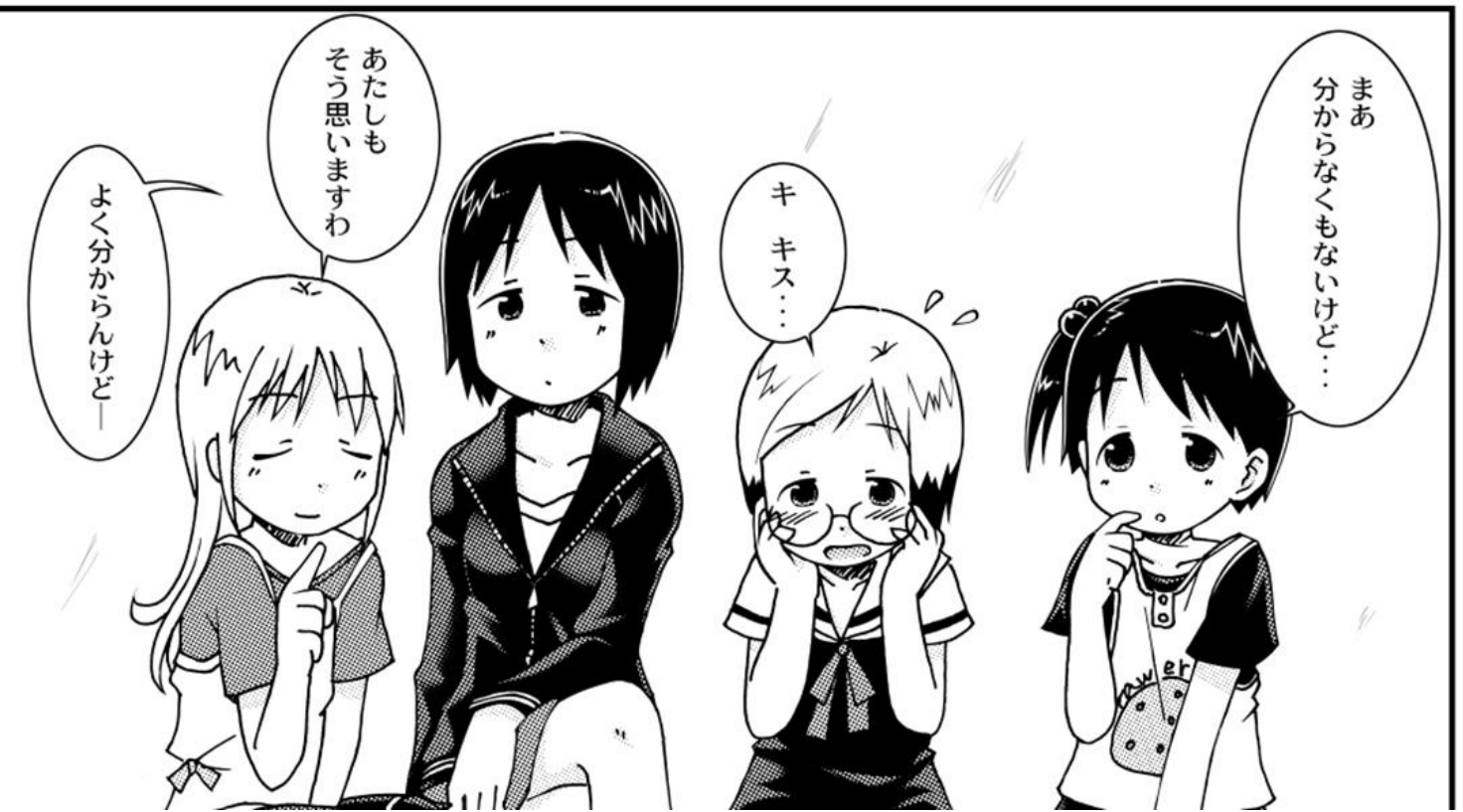
百合は手をつなぐとか
キスとかそういう
軽いのが一番えらいんだよ



でもですね
百合は軽い描写のほうが
えっちなんです



…と
パパの本に…

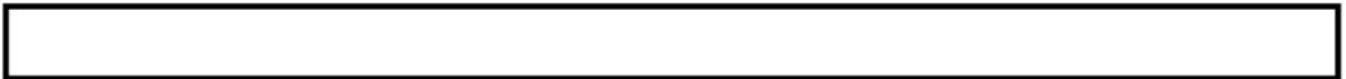
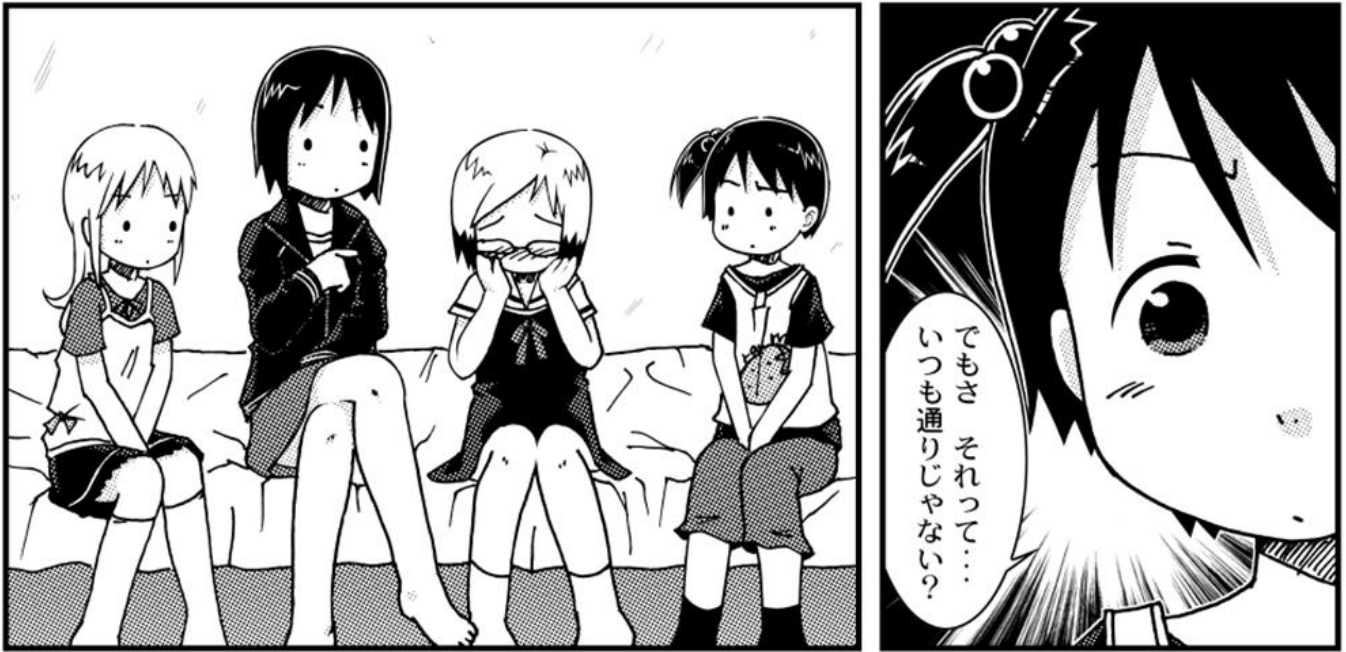


まあ
分からなくもないけど…

キ
キス…

あたしも
そう思いますわ

よく分からんけど…



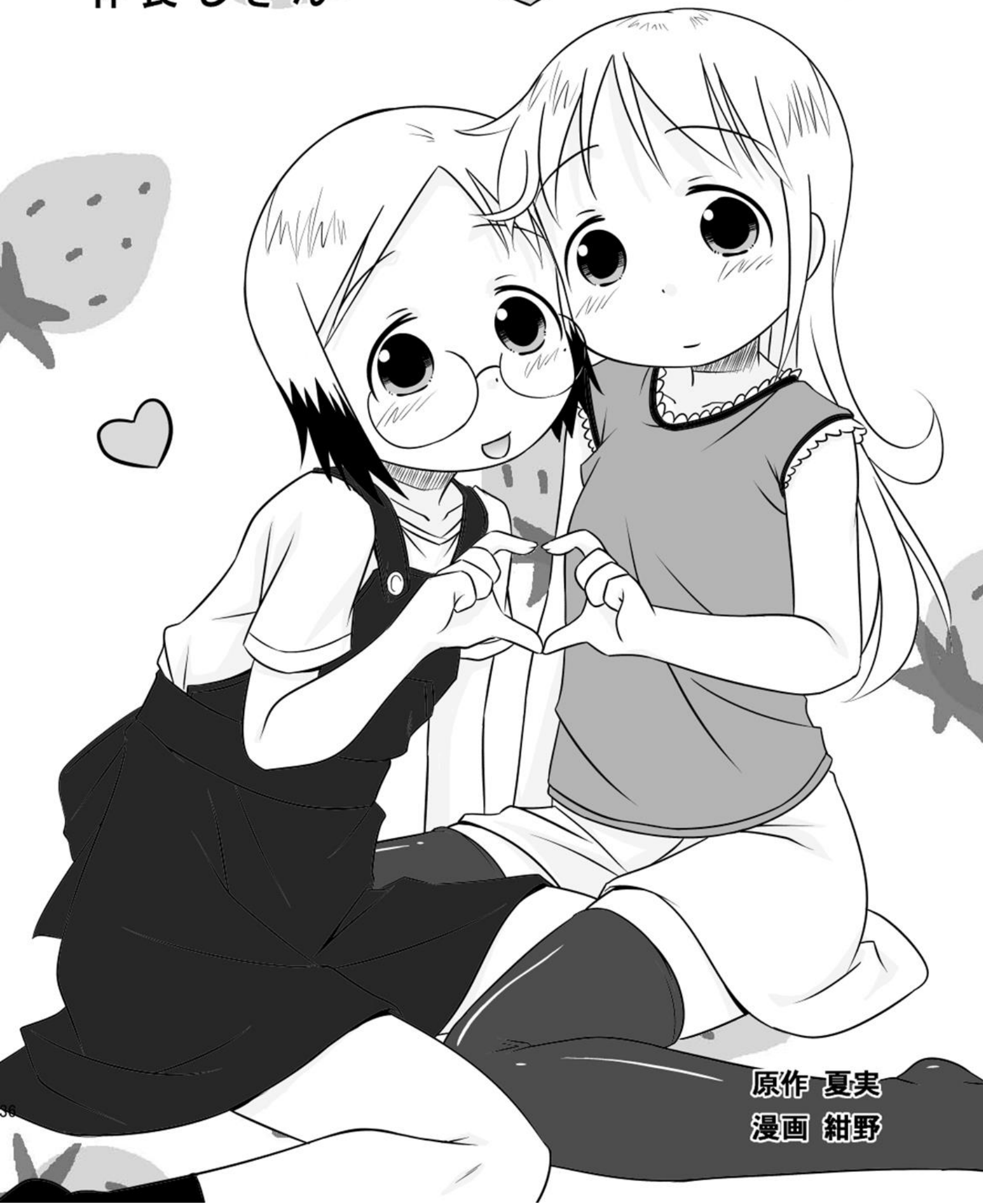
その時

百合に対する
関心を
無くしていた

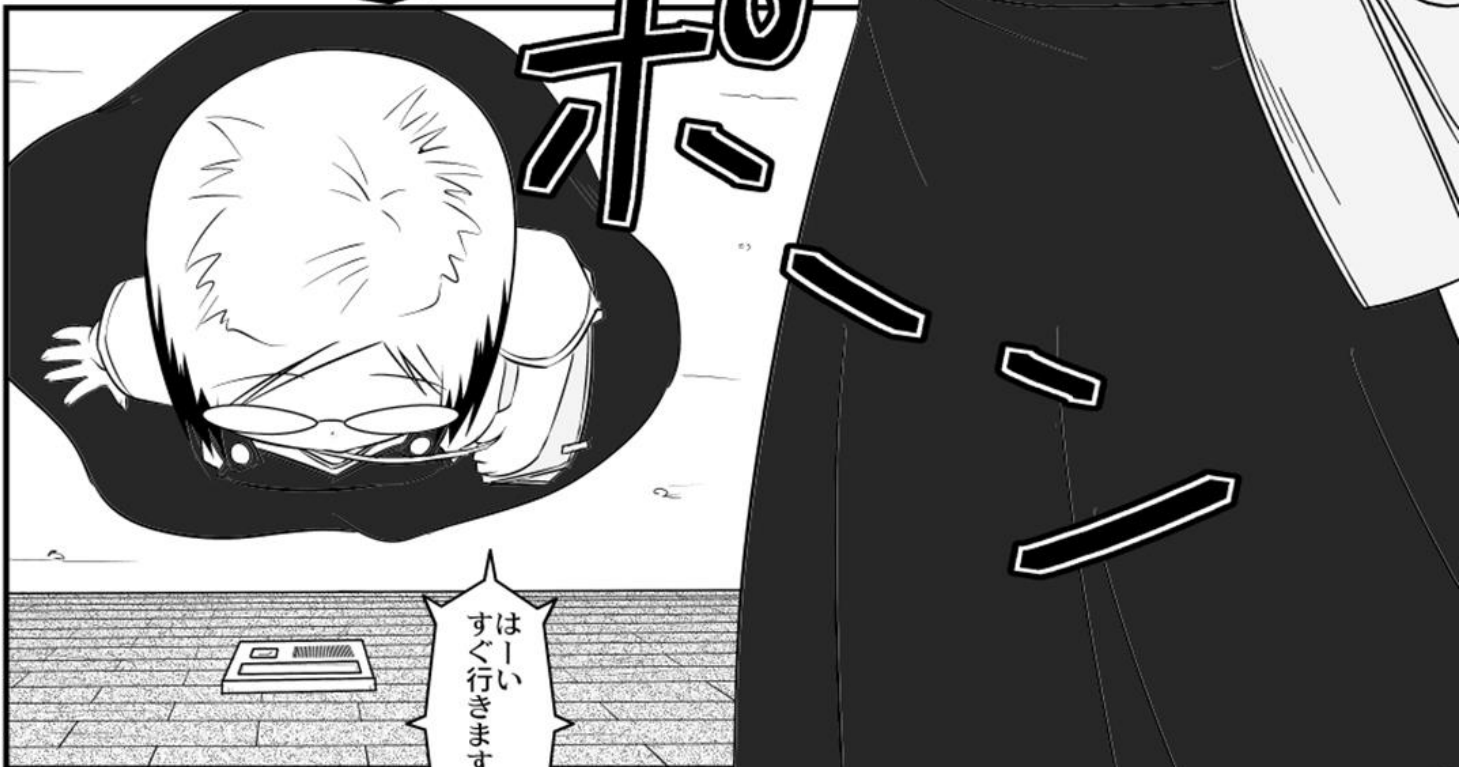
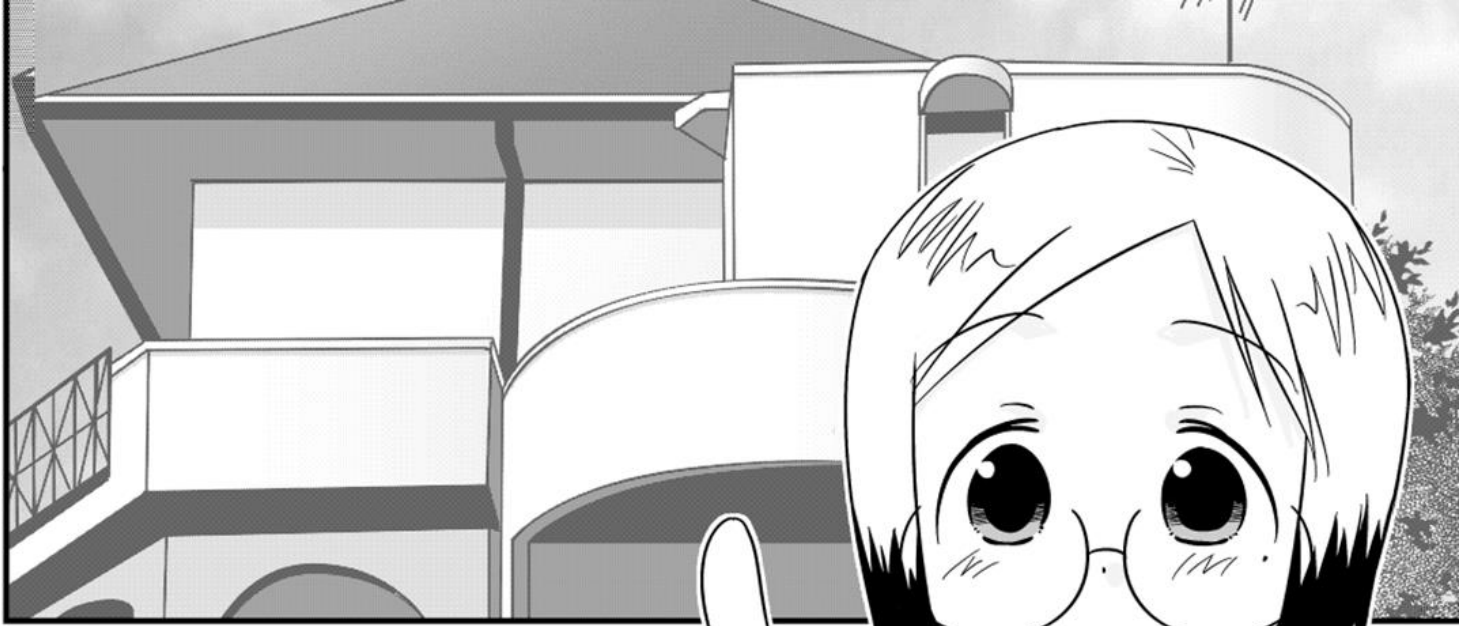
美羽は
もはや
完全に…

episode. C

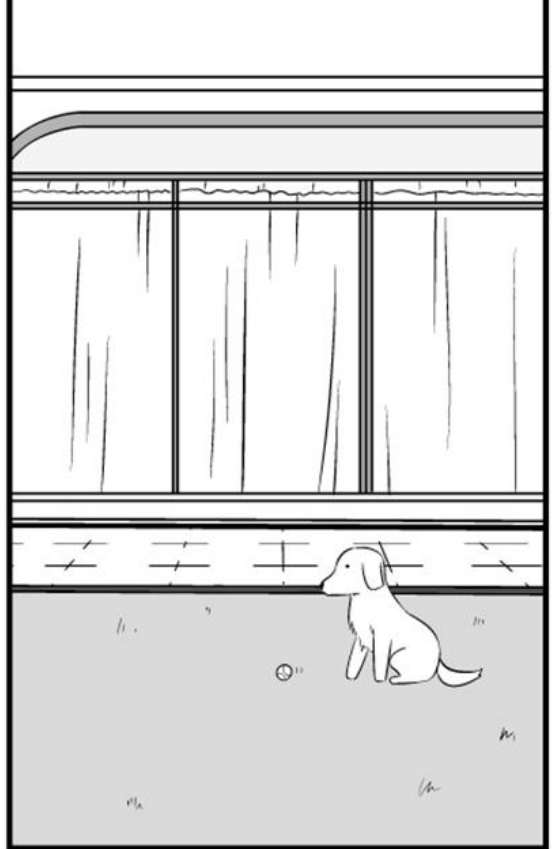
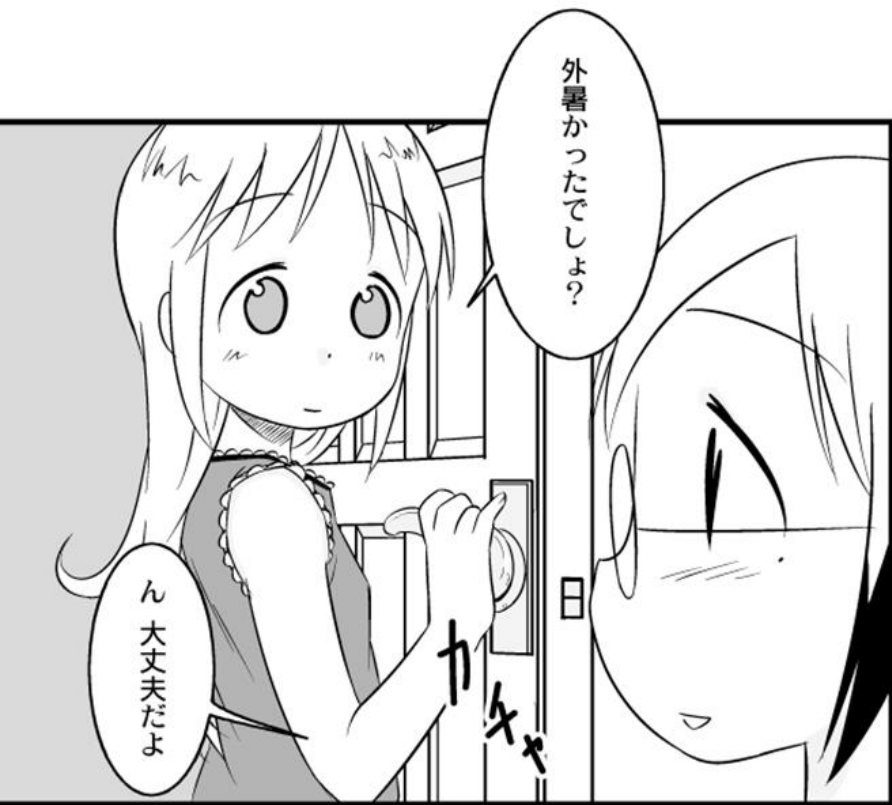
仲良しさん

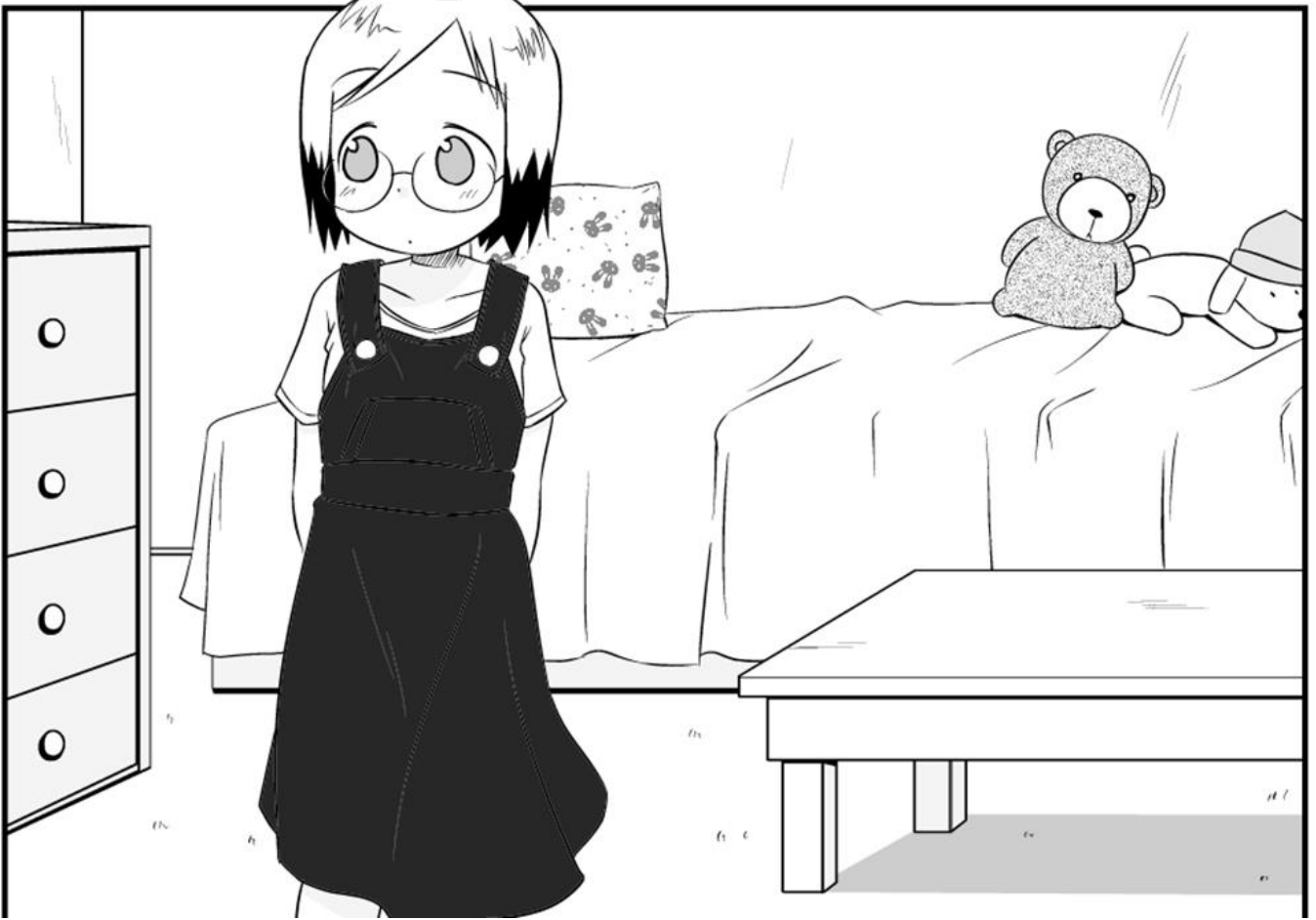


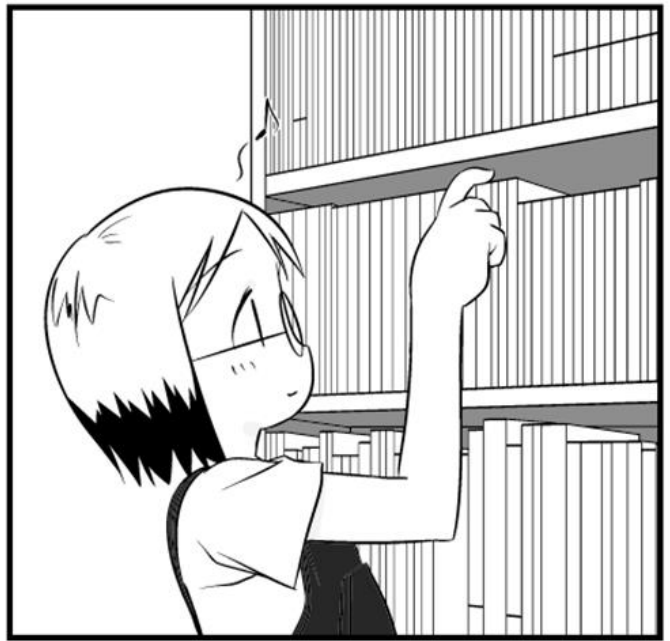
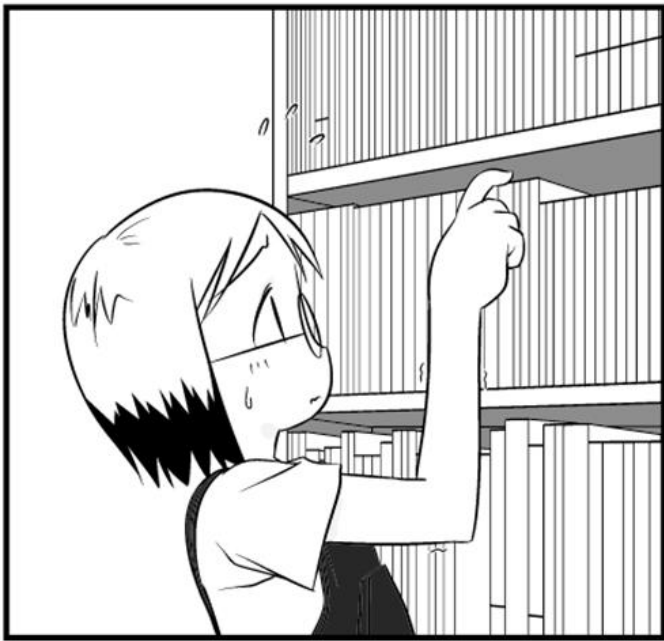
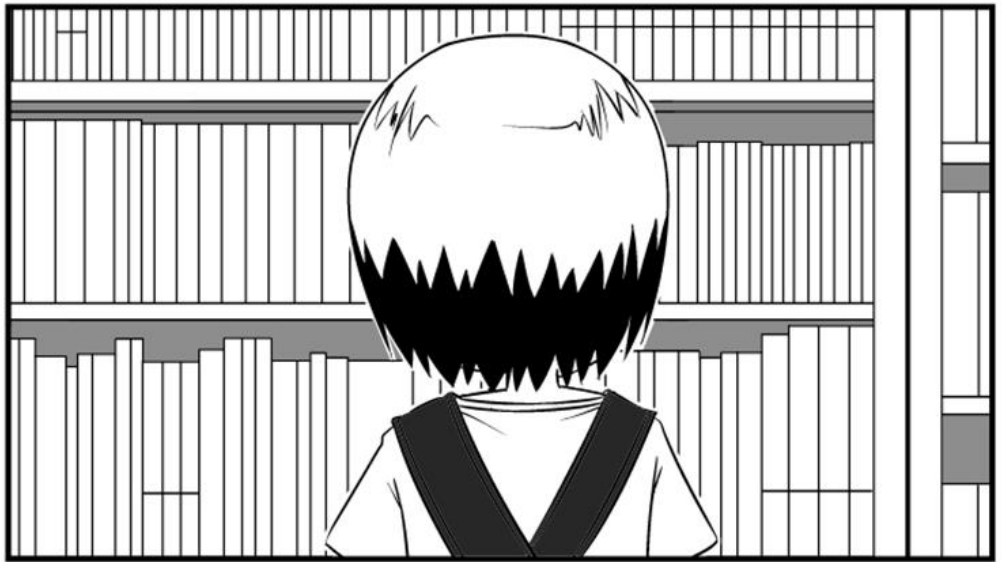
原作 夏実
漫画 紺野



すはーい
すぐ行きますわ〜

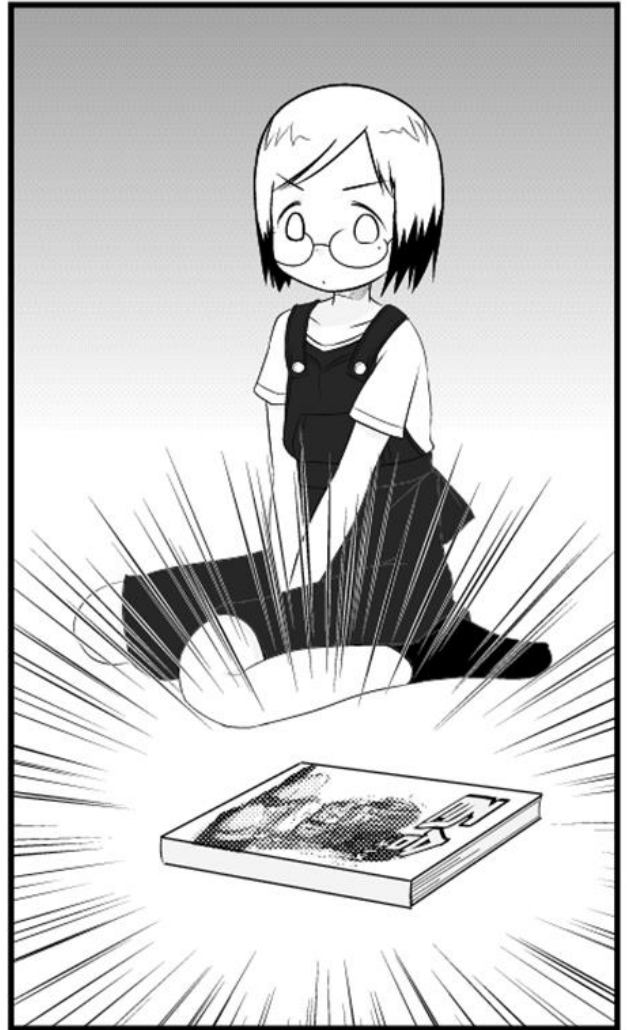


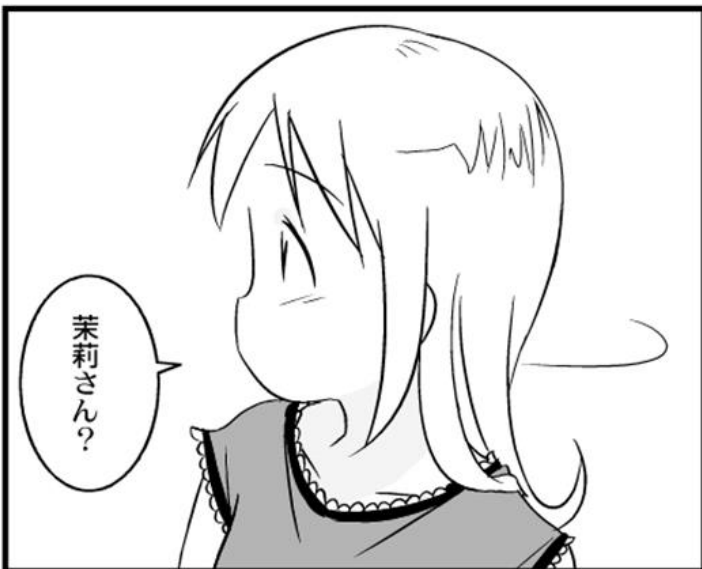
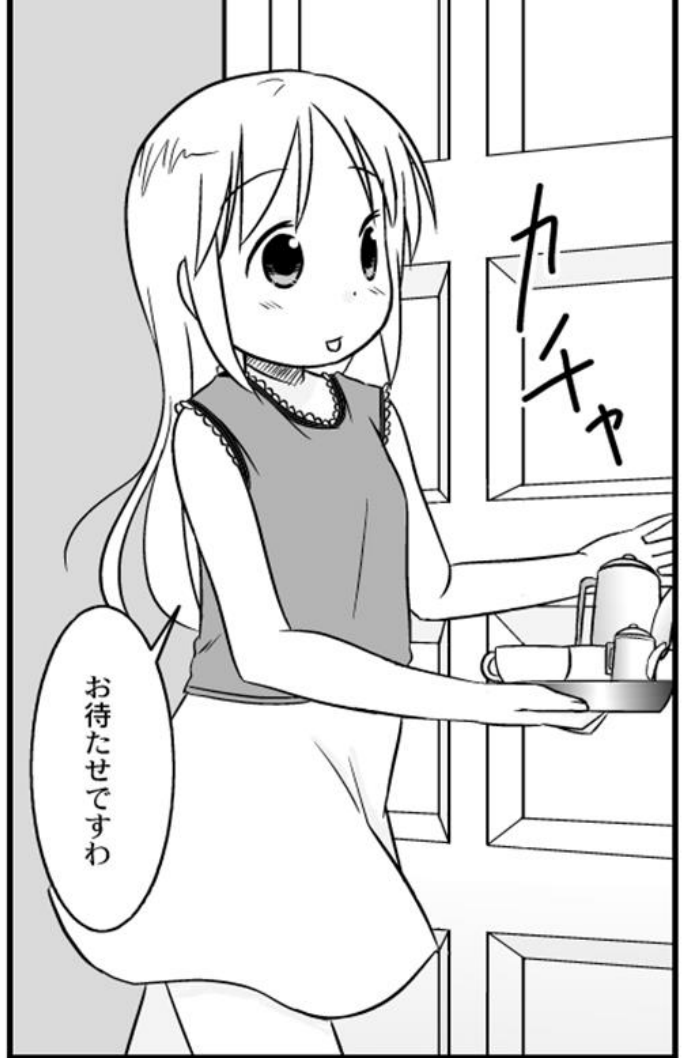


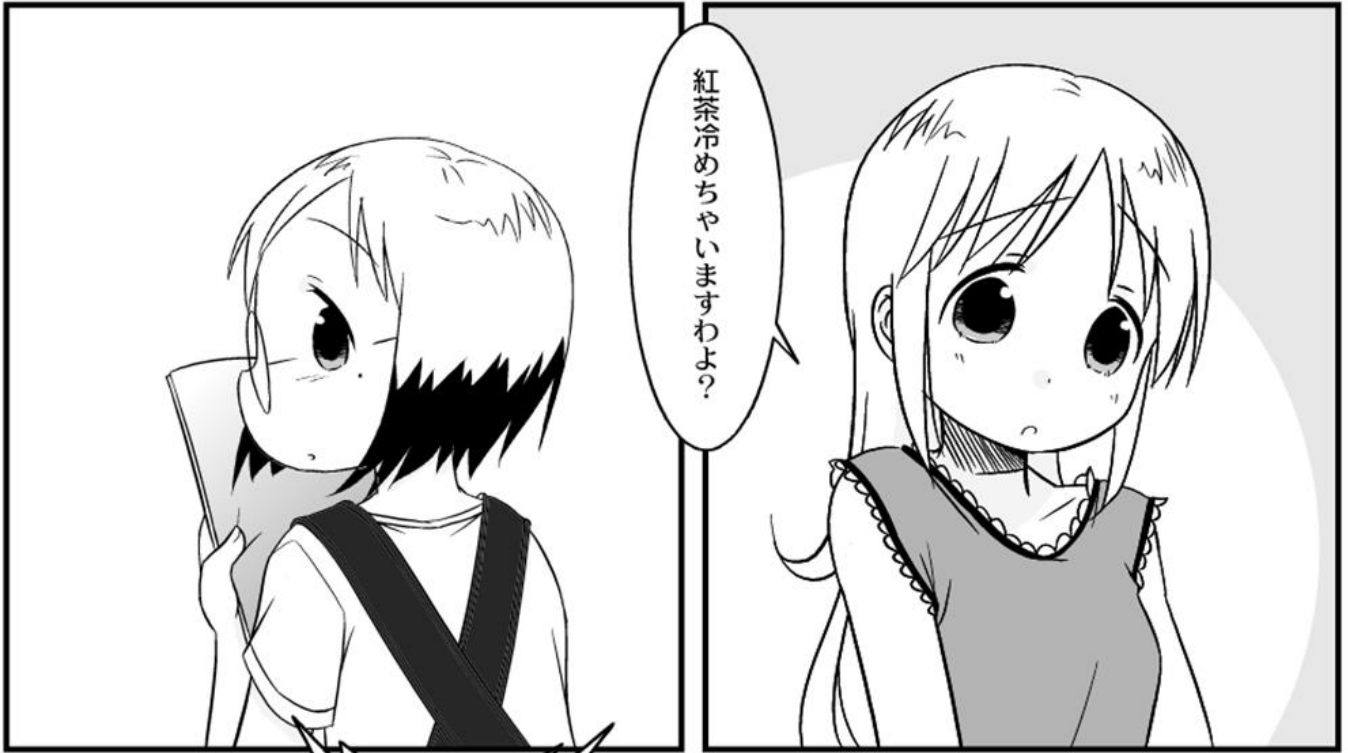




えろほん協力: 桃桃白さま



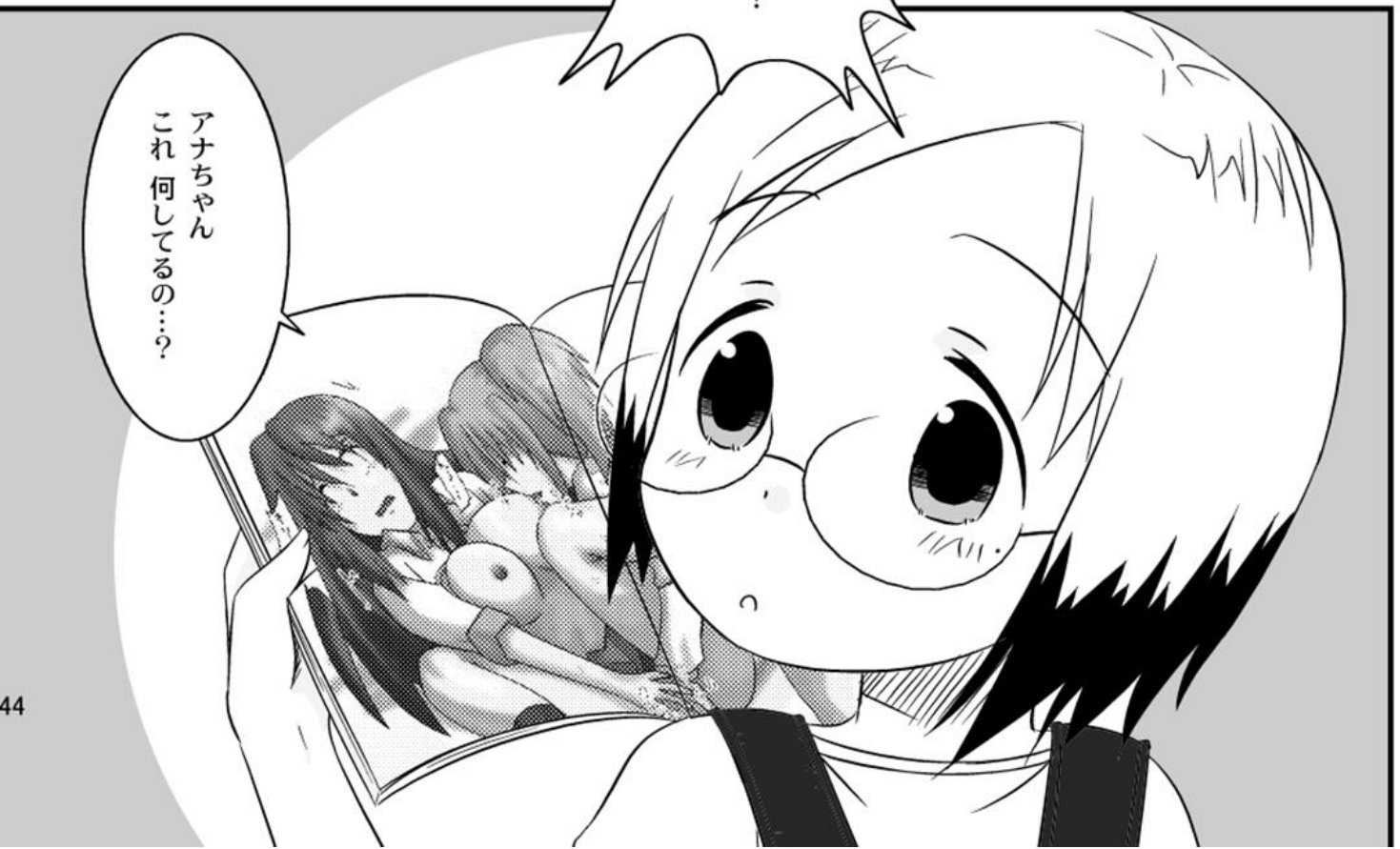




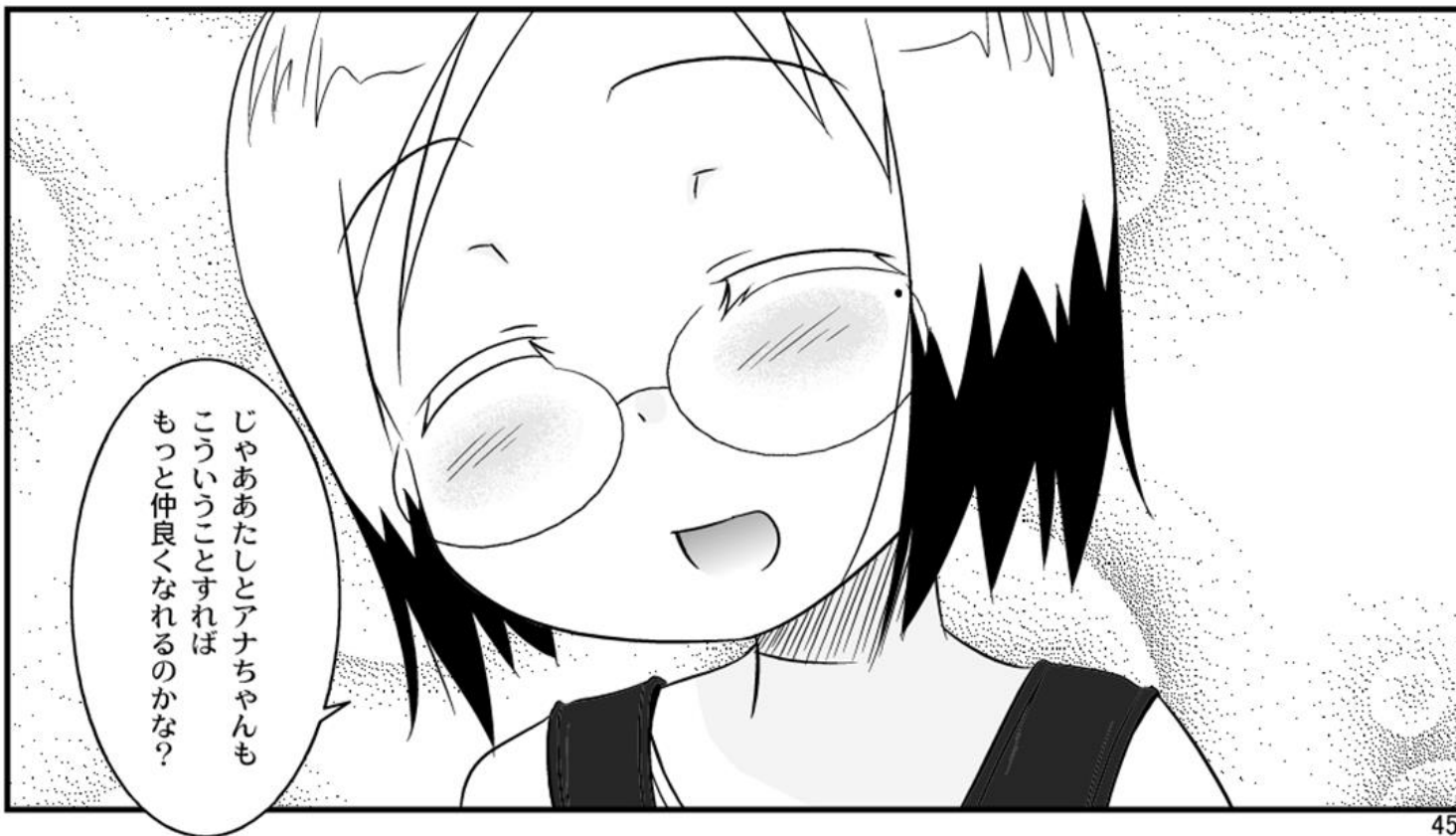
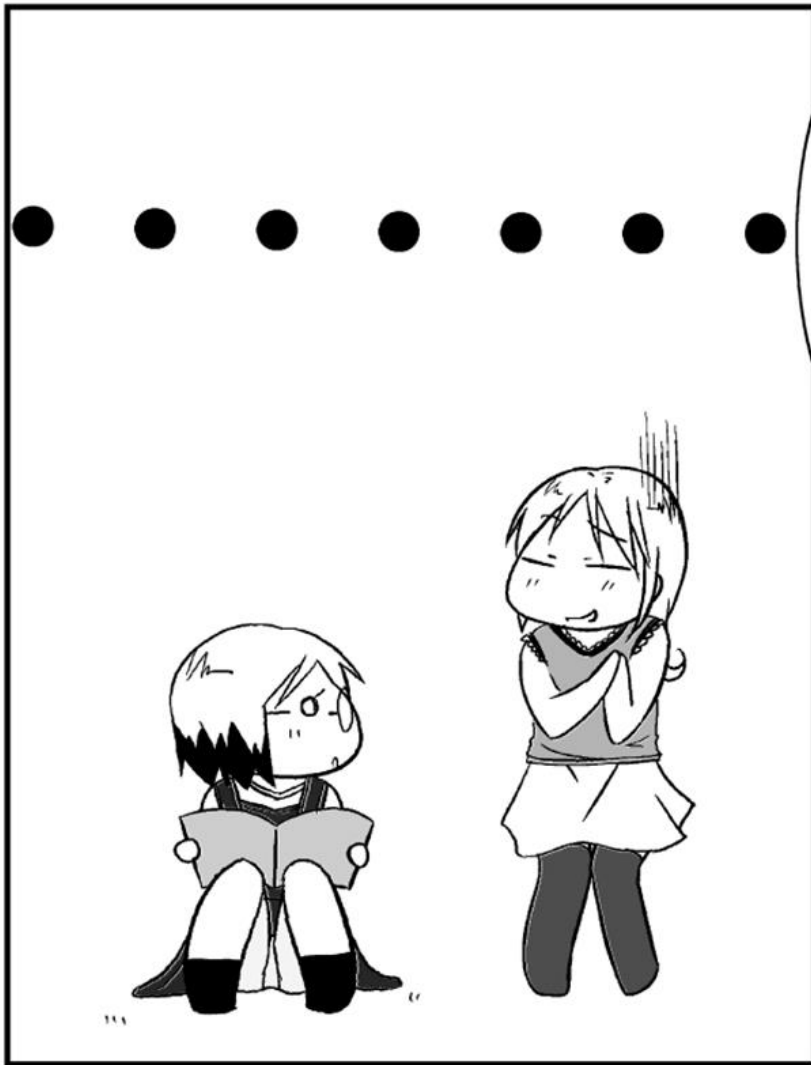


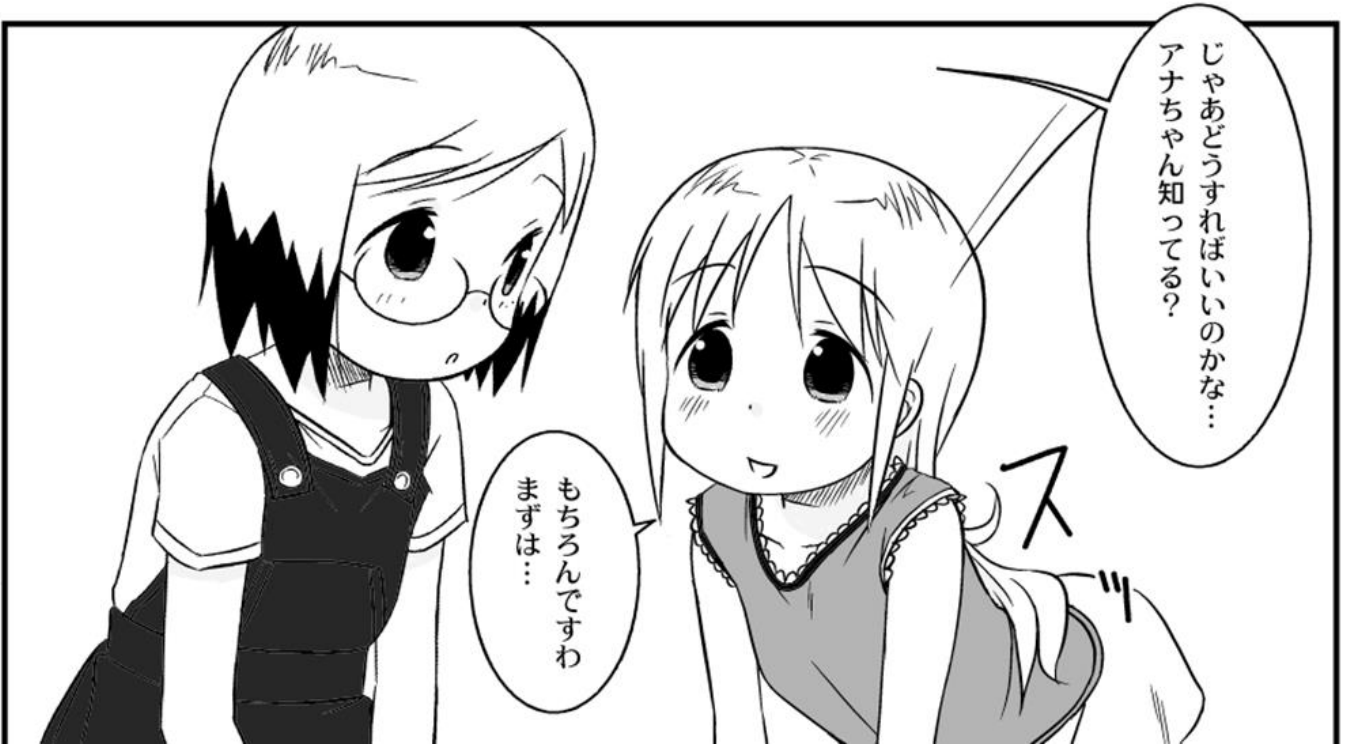
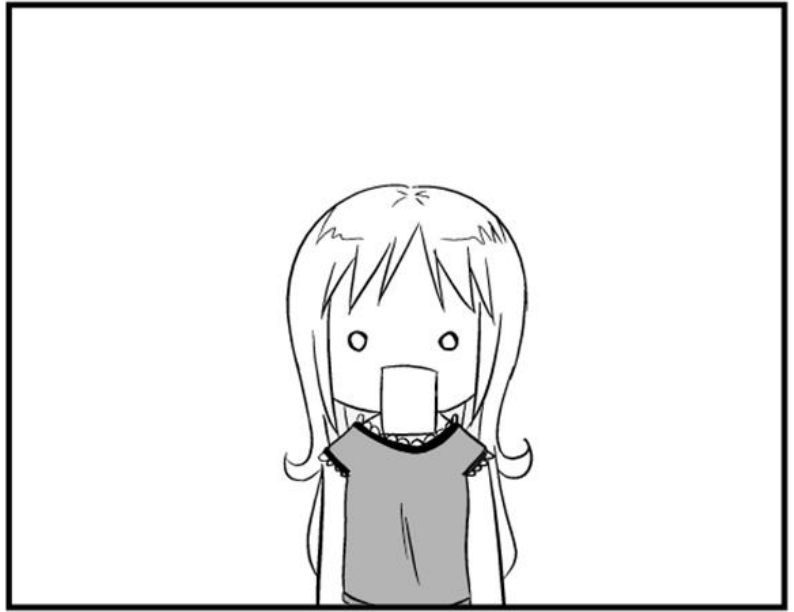
こ…
これは…

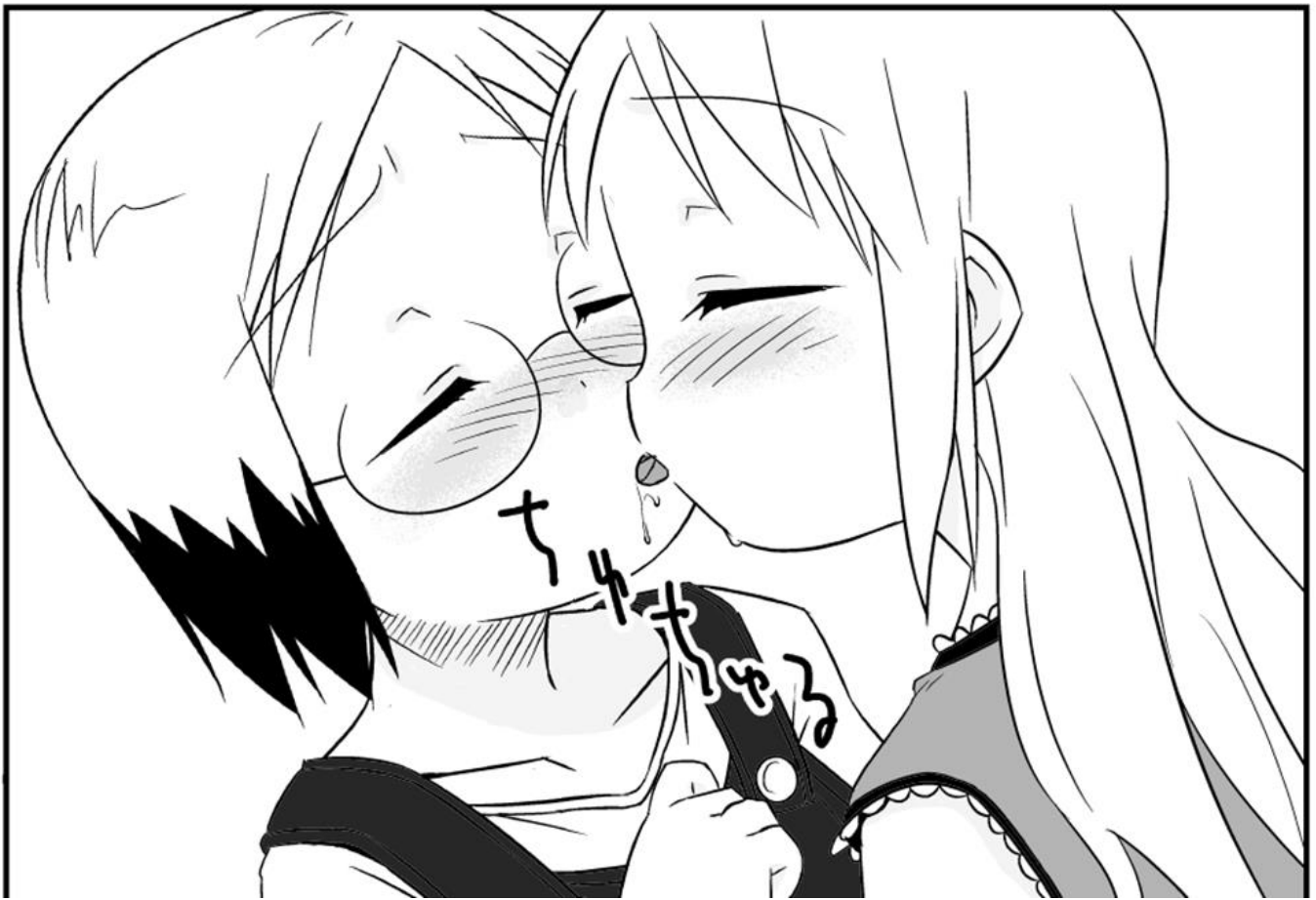
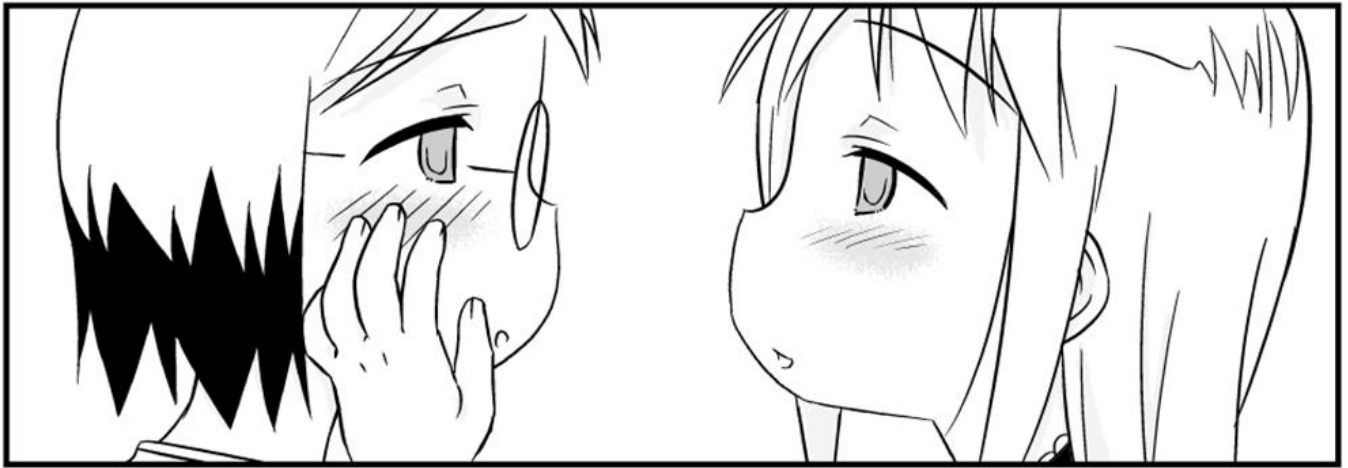
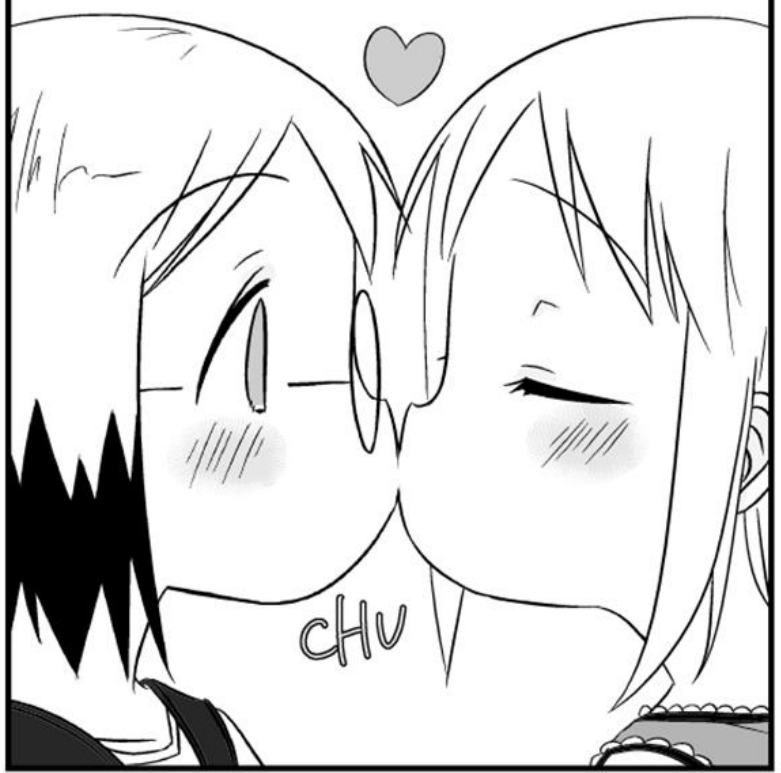
ち…違うんですわよ!!
これはお父様の…その…アレですわ!
部屋を間違えましたわ!!



アナちゃん
これ何してるの…?







あら息止めてたのですわね
かわいいですわ

ドキドキ
く…苦しかった…



アナちゃん
これでおしまい？



え…？
え…！？

いえいえ
これからが本番ですわ

ス
IV





う…うん

ん…



茉莉さん…
触っていただけませんか？



こんな感じでいいの？

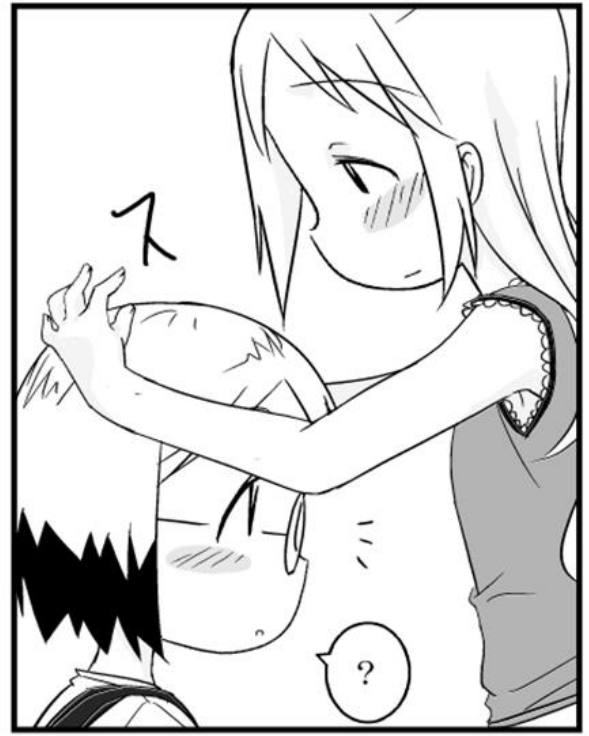
ええ そのまま…
お願いいたしますわ

ぴちゃ
ぴちゃ
ちゅ
ちゅ

ん…

ん…







こおかな？

びく

びくっ

ぴちゃぽちゃ
コロコロ

ふあああ！
ま茉莉さん！
だダメ…！！

やっ

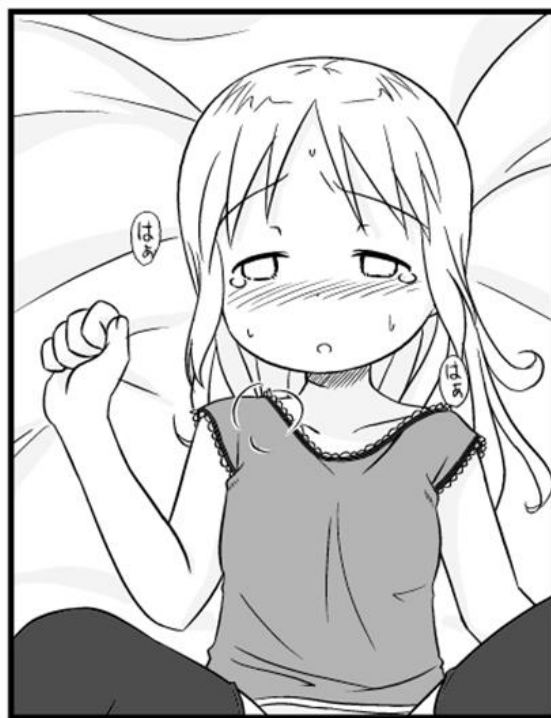
びく

あッ…

はああん…っ！！

びんびん

あおあ♡
しやあ
あ



ま茉莉さん
ゆ指でそんなに
こすつたり…

びゅん
びゅん
びゅん

びゅん

ちゅぷちゅぷ

びゅん

ちゅくちゅく

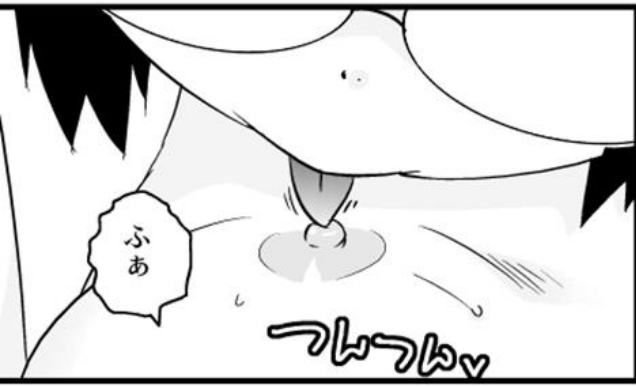
あつ
ああた…し
また…

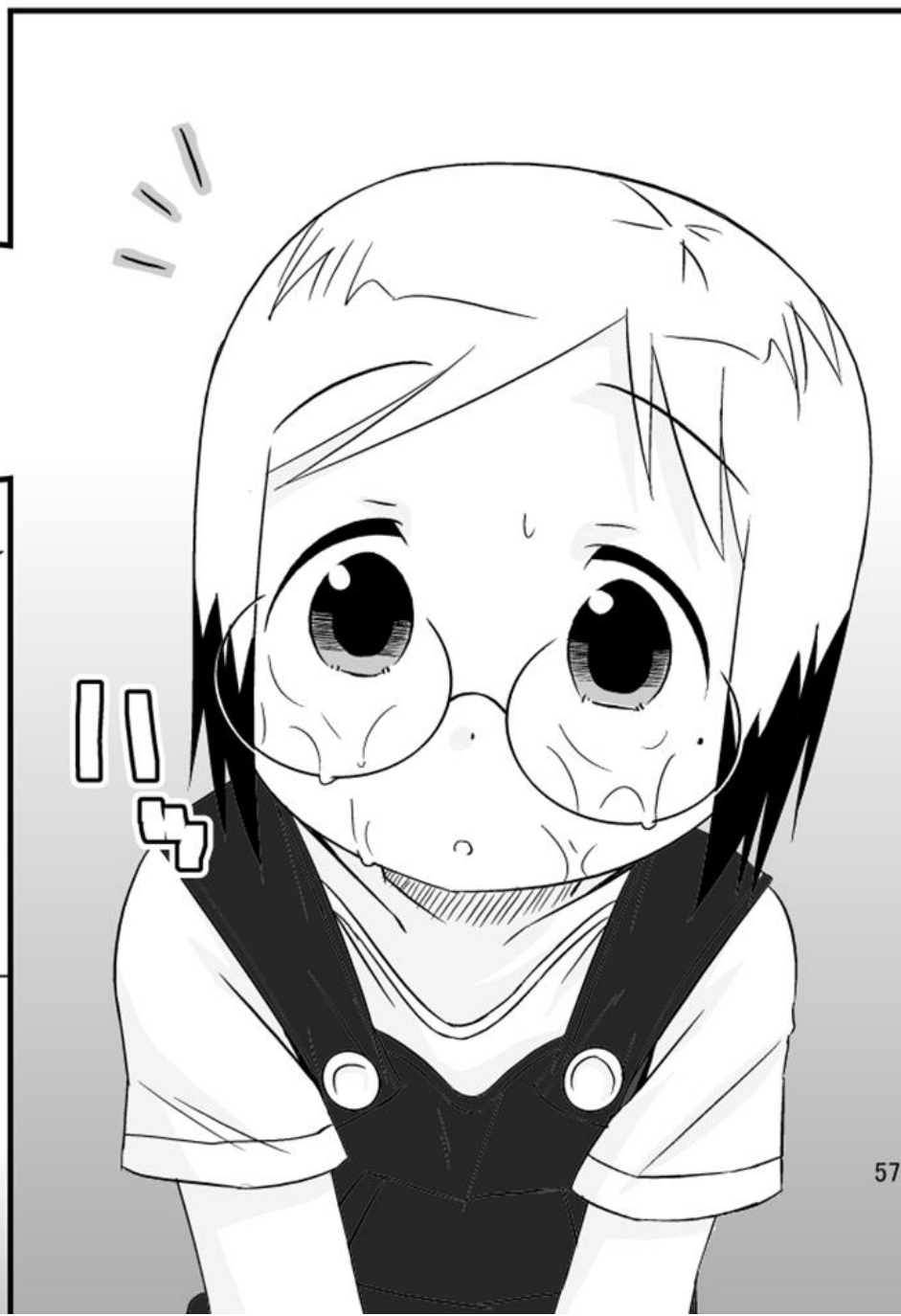
は…ッ

は…
お…し

ふあああああ!!!

びゅん





Episode.C 仲良しさん

はてさて、3作目になると「そろそろ茉莉ちゃんの出番だ」と、思い始めたみなさん、お待たせしました。
美羽を差し置いてアナ×茉莉ちゃん本です。
茉莉ちゃんは茉莉ちゃんです。特に変わったところの無い、至って普通の何の変哲も無い茉莉ちゃんなのですが、なぜかアナちゃんはエロキャラが似合うなあ勝手に想像。
アナちゃんが攻めると茉莉ちゃんが怖がって泣いちゃうので、ちょっと考えた末に純粋さを利用してやろう！！とか。
流れがあれば乗っちゃうのが茉莉ちゃんです。
「茉莉ちゃんは純粋無垢だなあ……」という気持ちでどうぞ！

Episode.D 伸×アナ！

残るは最後の砦のみ、いざ出陣！！
というわけにはいかず、美羽放置で伸×アナ本が4作目に。
アナちゃんの使いやすさにかわいさに目覚めたようです。
伸姉が攻めになりそうなところを力技で受けに。
この組み合わせだと、アナちゃん攻めのほうが燃えます。
というか、アナちゃんすっかりエロキャラに……………
帰国子女？だし、少しくらい進んでいても違和感は無いです！
アナちゃんなら……………きっとやってくれるはず！！！！
されるがままで、まさに言葉そのまんまの意味で
「下のお口は正直だな、うっへっへ」状態な伸姉と、
やたらめったら押しの強いアナちゃんの掛け合いをどうぞ。

あれ……ここ……

あたしの部屋……？

アナ……ちゃん……？

Episode D

伸×ア+!



絵:紺野
話:夏実

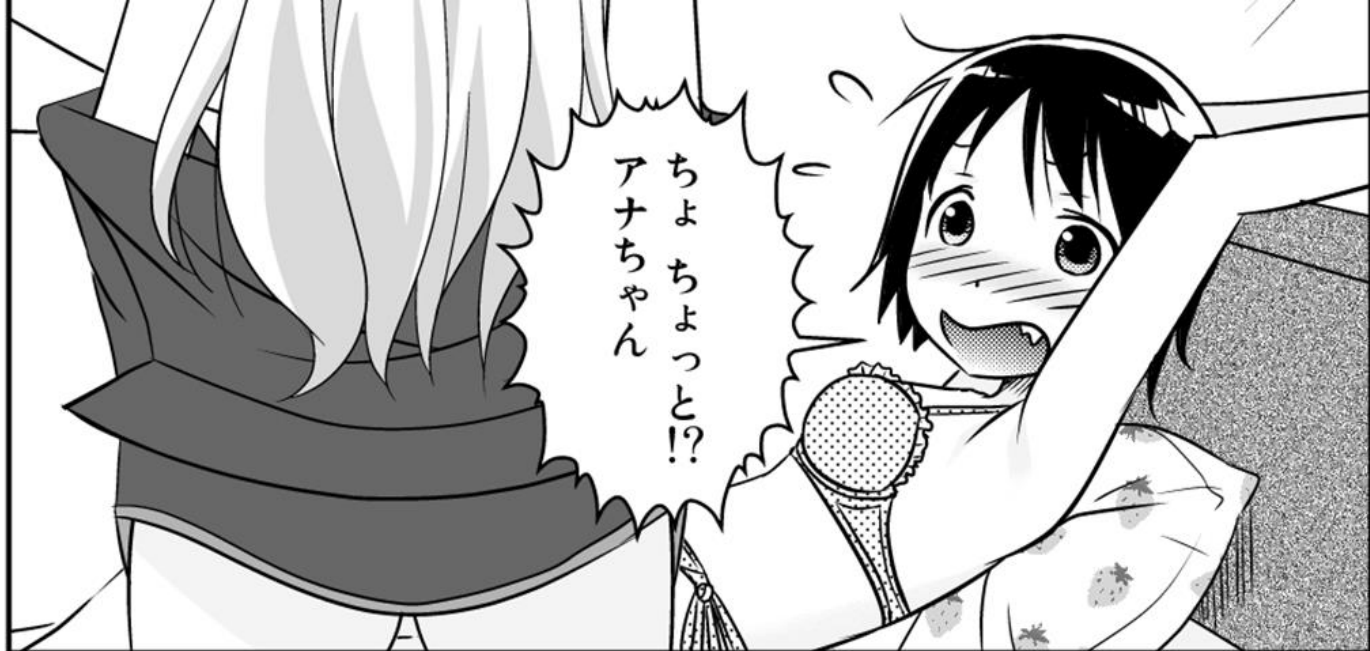






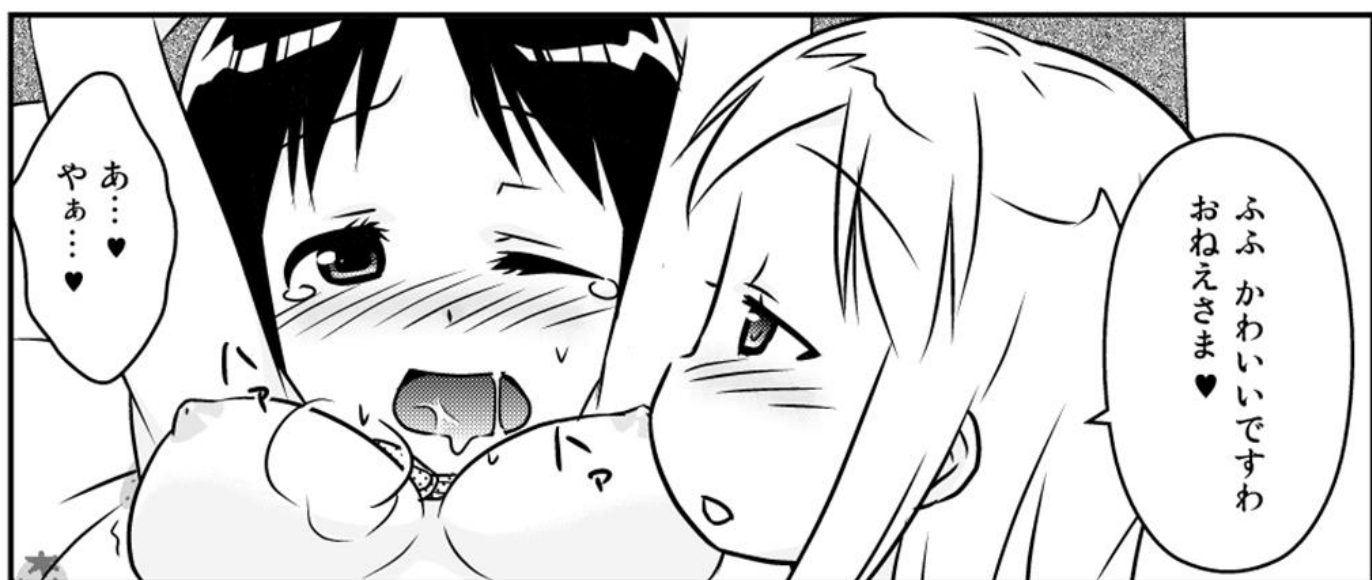
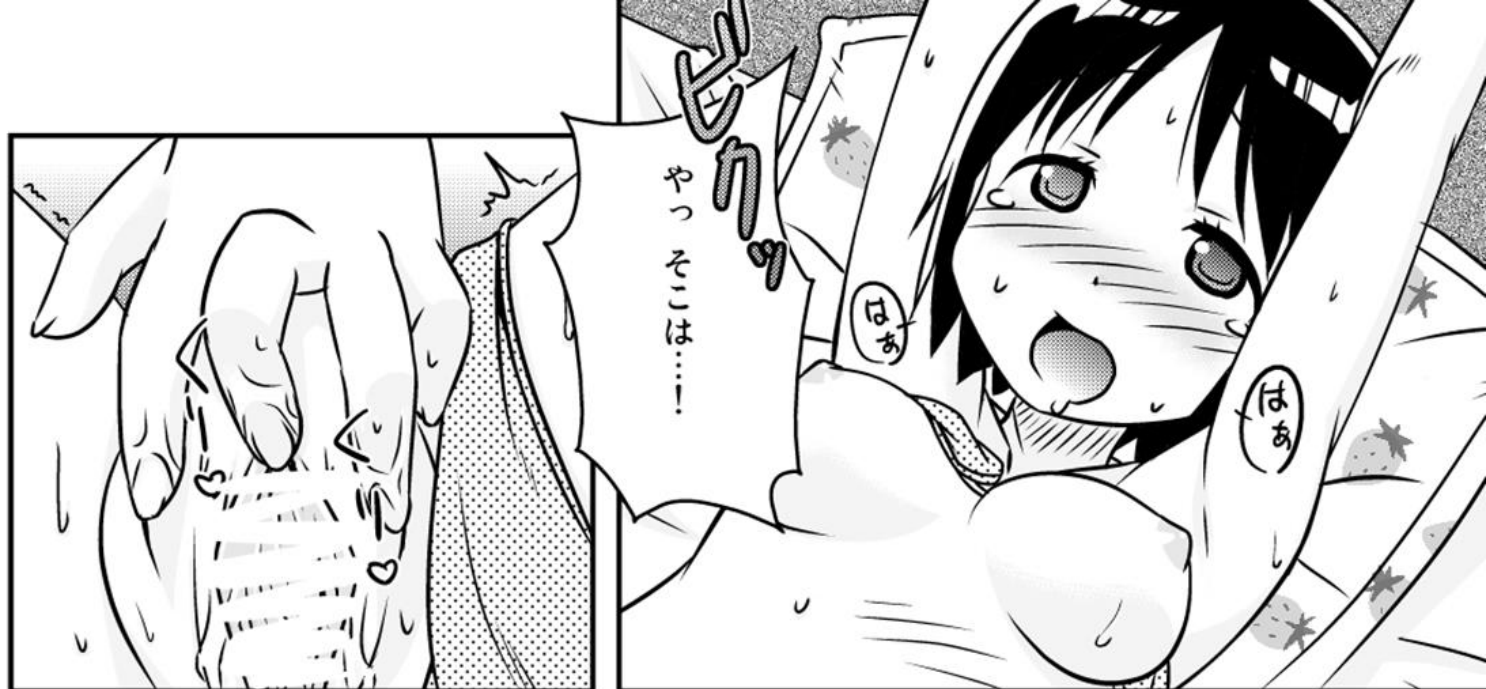
※Very Berry Mixより

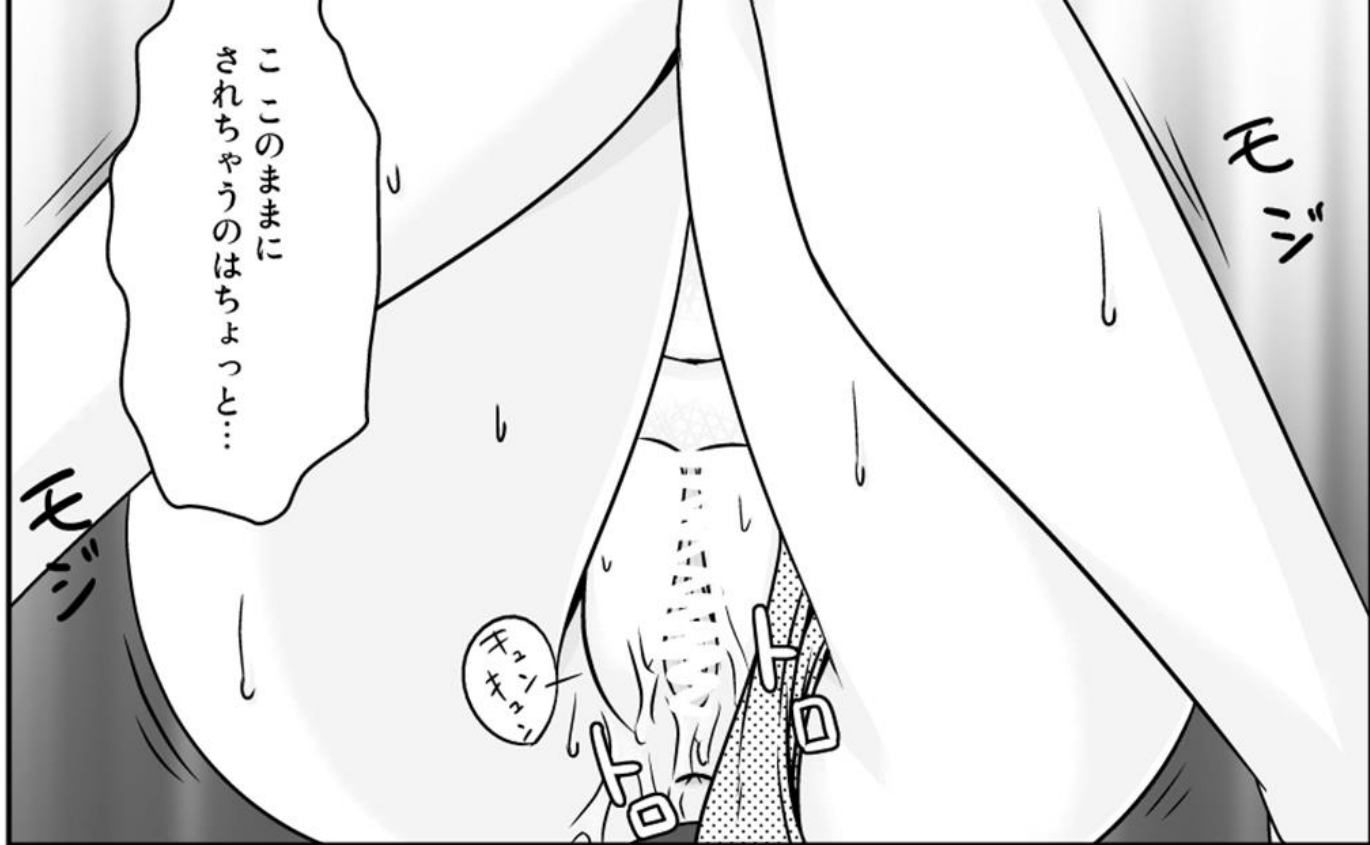






うふふ 野暮なことは
言いつこなしですわ





ここのままに
されちゃうのはちょっと...

モジ

モジ

チャキーン



でも次は
あたしのほうも
お願いしますわ



ふふ 大丈夫ですわ
おねえさま♥





ア

シュー

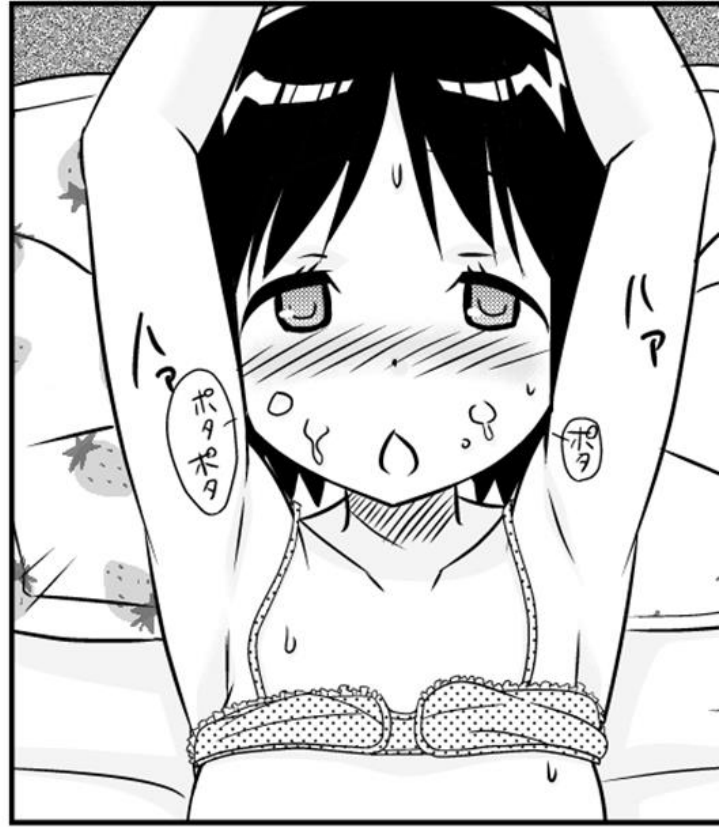
あゝあゝ

びしょ

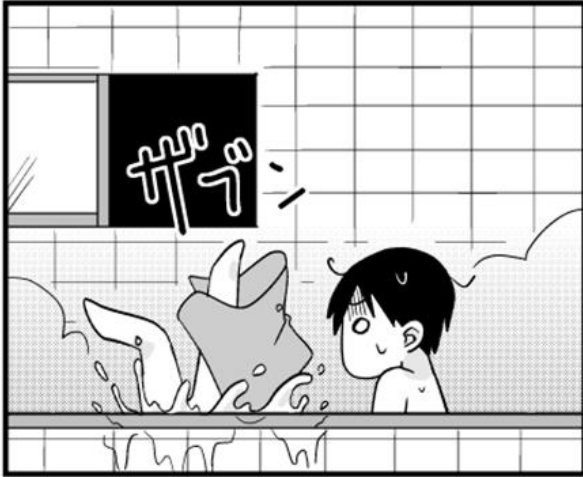
…びしょ

びしょ

びしょ







はいとーん!!

ぎゃあ!!!

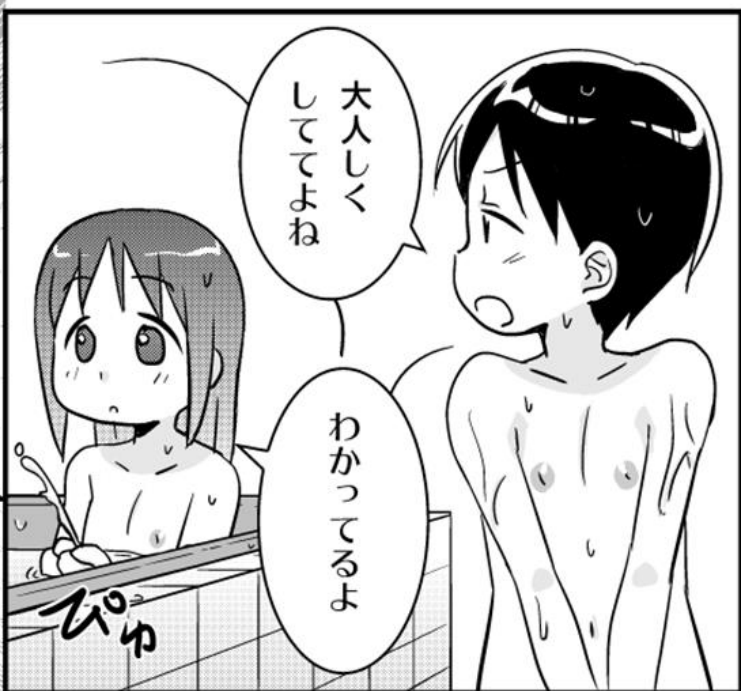


お風呂はレディの
たしなみじゃなか

で
なんのつもり?

レディは窓から
乱入なんてしないわよ



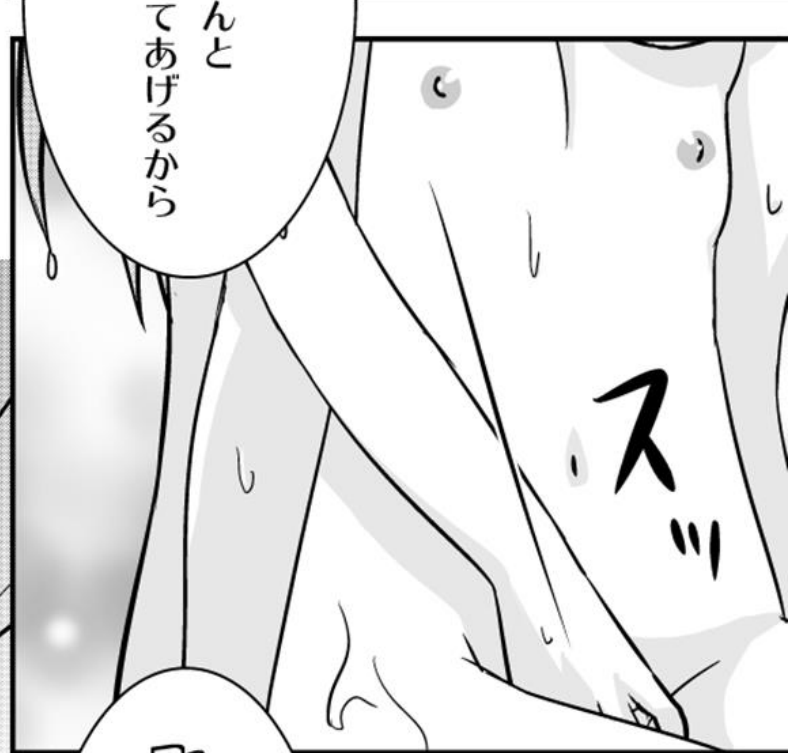








大丈夫 ちゃんと
こっちもやっつてあげるから



もうすっかり
トロトロ だね♪



ほら もう
こんなに

み
みっちゃん…



か
アア
ぬ
ち
ゃ



も
っと
お
願
い…

は
あ

は
あ

ん
ん
ん…

ほ
あ







律動混濁のストロベリー

夏実

「ちいちゃん、あたしすごい発明したよっ!」

「あーはいはい、わーすごーい、みっちゃんがすごい発明したんだってー。誰か聞いてあげてー」

「あたしはパス。アナちゃんお願い。そんなにすごいなら、アタシにヤ荷が重いからさー」

「ええっ!? わたくしですの!? えーっと、茉莉ちゃん、にこっ♪」

「にこにこ♪」

「こらラボメンどもっ! そんなんじゃあ、組織にやられちゃうよ!」

「……みっちゃん、今度はシュタインズゲートにハマったんだね。ドクペなら飲んだこと無いし、飲んでみたいかも」

「それは売ってなかったからコーラで我慢してる」

「こたわれよ! そういうところは!」

「ラボメンナンバー002よっ、細かいことを気にしすぎるとおっぱいが大きくなるぞ! ふわーっはっは!!」

「そこはまだこれからでしょう……あたしがナンバー002なんだ……ってことは、アナちゃんや茉莉ちゃん、お姉ちゃんもちゃんとラボメンの分担とかあるわけ?」

「ちいちゃん天才だな! ビシッ!! ラボメンナンバー004、助手!! コーラもってこい!!」

「あー? あたしが助手役かー。ヒロインだし、悪い気はせんけど。だがコー

ラはもってきてやらん」

「こ・れ・だ・か・ら・いつまで経ってもおっぱいが小さいのだ! ふわーっはっはっは!!」

「ゴスッ」

「……助手が組織の命令で攻撃してきた。3分で戻れなかったらカップめんは食べておいてくれ。アナ・クサイ・カレイシユウ!!」

「えーと、お姉さま、この狂気のマッドサイエンティストさん、再起不能にしてよろしいでしょうか?」

「おー、好きにやっというていいよー。なんなら電子レンジにぽいっと放り込んでみて」

「お姉ちゃん、別にレンジでチンしなくても、みっちゃんってゲルっぽいから意味無いと思うよ?」

「それもそうだったか。じゃあアナちゃん、いつものように呪い殺しておやりなさい」

「闇に惑いし哀れな影よ、人を傷つけ貶めて、罪に溺るる業の魂。イッペン……シンデミル……って、キャラが違いますわ、お姉さま」

「人を呪わばアナふたつって言うし、アナちゃんもうひとりいないと無理か……」

「こら! 助手、バイト戦士と仲良さそうに話すなんて、空気が読めていないぞ!!」

「ほーう、アナちゃんがバイト戦士の子かー。それならあたしは犬猿の仲にな

らないとダメかなー」

「お、おねえさま!? お、おそらく最終的にはとっても仲良しになると思うんですの。だから犬猿の仲になる必要はまったくありませんわ!!」

「こら、バイト戦士! 話を進めるなっ! ちいちゃんも何とか言ってるよ!」

「えー、あたしに振るんだ……って、ケンカの仲裁ならまだしも、ケンカするよ用に仕向けるっていうのはおかしいよ」

「くっ、もはやラボメンは組織に洗脳されてしまったようだ。残るラボメンはたった一人——」

「そーいや茉莉ちゃんは誰なんだろうな? たぶんシャイニングフィンガーあたりだと思うけど」

「どうか、それぐらいしかないよね。猫耳メイドさんは茉莉ちゃんとキャラの距離がちょっと遠すぎるし」

「ですわね。ちよつと影のあるところなんて、茉莉ちゃんにぴったりだと思います。あとメガネという点も共通項として見逃せませんわね」

「巫女さんも捨てがたいけど、アレのほうは付いてないだろうしなあ、茉莉ちゃんには。あつたらあつたて茉莉ちゃんなら納得出来るような気もするけど」

「お姉さま、残念ながら茉莉ちゃんにはそのようなオプションはございませんでしたわよ……」

「おーい、お姉ちゃんもアナちゃんも、まだお日様カンカンの真昼間だぞー」

「ああ、茉莉ちゃんはシャイニングフィンガーだろうなあって話だぞ? ちいは何考えたんだか」

「ええ、ええ、それ以外の何者でもない会話ですわよ。6年生になってしまつと、汚れてしまつてすわね……」

「お、おまえらー……」

「えっ? えっ!? な、何のことなんだろう……」

「そんなことよりもっ! さあスーパーハカーよ、この反乱分子を根絶やしにするのだ!! ふーっはっはっは!!」

「その発想は無かった」

「まさか茉莉ちゃんがスーパーハカーっていうのがオチだったなんて……みっちゃん……」

「さすがマッドサイエンティストさんですわ。そのへんまで再現してください」

「みっちゃん萌え萌え。おまいら逝つてよし」

『茉莉ちゃん!?』

「ふーはっはっは! さすが白髪!! とても空気を読んでいる!!」

「ちよつと……みっちゃん!!」

「うるさいブ女」

「なっ! き、貴様!! リーダーに向かってなんだ!! その口の利き方は!!」

「……茉莉ちゃん、すごいこと言うね——って、ずいぶん懐かしいところからもってきたな……」

「あれはあれだ、黒歴史つてやつ。確かあたしの顔もだいぶ違つたし。若奈ちゃんはどこいっただし」

「ううう……わたくし、そのころにはまだ生を受けていなかった気がします」

……」

「えっと、美羽ちゃん？ 次は何て言ったらいいのかな？」

「こらスーパーハカー！ そういうオフレコなことは皆の前で言ってはダメだ!! ふーっわっはっはっは!!」

「あつ、えつ、ごめんね……お姉ちゃん、どうしよう……」

「おーよしよし、ちよつとかわいそうな子にかわいそうなことさせられてかわいそうな茉莉ちゃん、よしよし」

「まったくすわ!! それに、マッドサイエンティストさんがさっぱりキャラが掴めていなくて乗るに乘れせんわよ」

「あーうん、確かに。みっちゃんアレだよ。実はそこまで深い知識が無いニワカってやつだよ——って、アレ？ みっちゃんどこいくの？」

「孤高のマッドサイエンティストは崇高なる実験の準備のためにラボに戻る! ふーっはっはっは!!」

ボタン

「あーあー……ちいのせいで美羽が出て行っちゃったぞ。あたしは助手だけど、美羽とは出会わない世界線の助手だから放っておくけど」

「えーつと、わたくしも未来から過去に来ていない世界線のバイト戦士なので、特に追いかける必要性を感じませんね」

「みっちゃんハアハア、とかちゃんと言った方が良かったのかな……」

「!! そういえば!! そういえばすわよ!! 茉莉ちゃんがわたくしのパパですわね!!」

「えっ!? えっ!! えーっ!!! わ、私はアナちゃんのパパだったの!？」

「うんむ。アナちゃんは実は未来から来ていてな。パパである茉莉ちゃんに会いに来たんだよ」

「そ、そうだったんだ!? てっきり、パパは男の人しか無理だと思っていたから、ちよつとびっくり……」

「だいじょうぶですわ、茉莉ちゃん。世の中には『ふたなり』や『男の娘』という、便利な言葉がございますからね」

「おーい。茉莉ちゃん真に受けちゃうよー? みっちゃんよりノリノリなんだから、まったくもう……」

「う、うん、わかった! 私『ふたなり』や『男の娘』になれるようにがんばってみるっ!!」

「茉莉ちゃん、よく言った!! 感動した!!」

「素晴らしいアイディアですわ!!」

「おーい……リアクション間違えるような気がするんですけど……」

ぶいーん——ぶいーん——ぶいーん——
「あ、ケータイ鳴ってる……って、あたしのだ……そしてなぜみっちゃんから……?」

「ちいも美羽もスマホだもんなあ。どうせろくでもないアプリでタッチしてぶひひ言ってるんだろうなあ」

「ふ、不潔ですよ! 千佳さん! そんなアプリは良くないので、今度教えてください!!」

「えーつと……じゃあ、私も後で教えてほしいかな……?」
「いや、みっちゃんは知らんけど、あたしはしてないぞ……。そして茉莉ち

やんの目がキラキラしてるんですけど……」

「あー、茉莉ちゃんはスマホもってないでしょ？ あたしがあとで直接教えてあげるから」

「お姉さま！ ぜひわたくしも一緒に複数で——」

「う、うん！ じゃああとで身体にたっぷり教えてね？」

「おーい、君たち……ってどうか、茉莉ちゃんまで……」

「それはそうと、ちい、美羽からのメールはなんだって？」

「あつ、忘れかけてた。えーっと……『いつもお前を見ているぞ』だって。添付ファイルもちゃんとあるし……」

「美羽さん、ニワカを突かれてちよつと悔しかったのでしようか？ でも添付ファイル、開くのは勇気がいらしますね」

「だなあ。この前の風呂での一件、隠し撮りでもされてたんじゃないのー？」

「なっ！？ き、気付いてたの!? ってどうか、そういうやましいことは一切してないし!!」

「だーれもやましいことーなんて言っていないのに、ちいは素直だなあ。ね、茉莉ちゃん？」

「……ほっ」

「ま、茉莉ちゃんも『ポッ』ってなんだー!! ああもう!! それはそれとして、添付添付! どれどれー」

「添付で送られてきたということは、よほどの自信のある一枚ということになりますわね……ごくり。まさか昇り詰めた瞬間の……」

「……あつ……」

「おつ、ちい、どした？ 想像してたりアクションとだいぶ違うけど」

「あー……うん、これ……」

「えーっと、『いつもお前を見ているぞ。誕生日おめでとう』添付ファイルはケーキの写真、ですわね」

「わあっ! 美羽ちゃん、すっごーい!! サプライズだね、千佳ちゃん」

「なあ、ちい……」

「うん……ありがたいんだけど……」

「ありがたいんですけど？」

「あたしの誕生日、もう半年以上前なんですけど……」

「いや、まで、ちい。ちゃんとメール送信の日付を確認してみよう」

「ええ、そうですわ。もしかしたら未来からメールかもしれないわよ!」

「えっ? みんなのケータイ、そんな機能がついてるの!?!」

「……つい3分前の送信で間違いないよ」

『ですよねー』

ガチャ

「ちいちゃん、お姉ちゃん、シャーペンの芯ちようだいってメールきたよ、お兄ちゃんから」

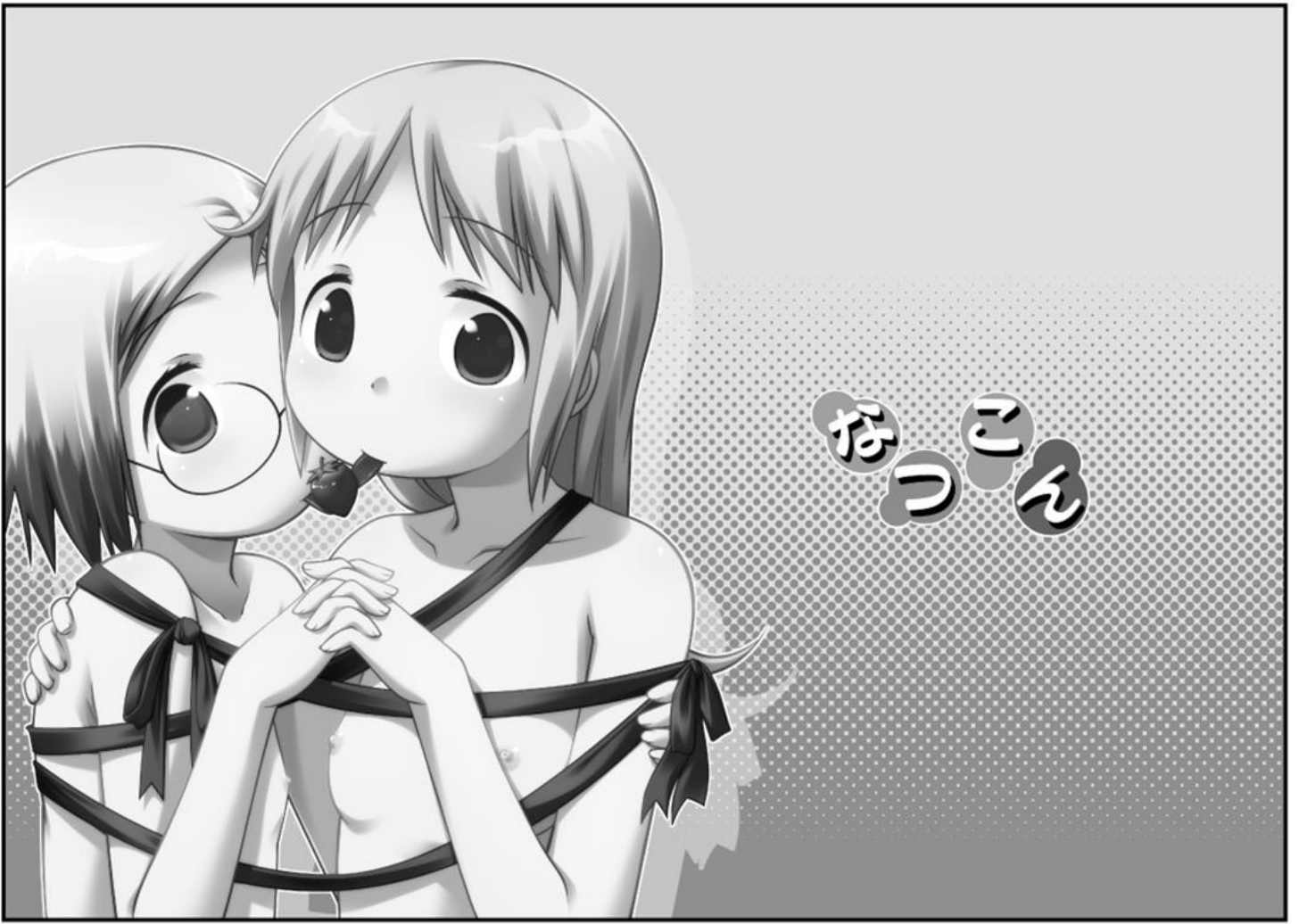
「それこそ違う世界線の話だー!!!」



■お姉ちゃんといっしょ - 初作品。もっとクリームべっとりにすべきと反省

■VeryBerryMix - 当時流行ってたアレ。ど真ん中の美羽がらしく描けた気がする





■桜木さんとコッポラさん - キャラでかすぎだよ！ タイトルロゴはいんねえよ！

■伸×アナ！ - 横型にでっかく紙面を使うのもアリ？ と言う意欲作。結論的には普通に縦にすべき





なごん
つん